

歴史的分野 年間学習指導計画・評価計画（案）

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1章 歴史の移り変わりを考えよう	●章の評価規準					
	第1章 歴史の移り変わりを考えよう 3	○小学校で学習した歴史上の人物や建造物について振り返り、年表にあてはめる作業や「人物カード」をつくる作業を通して、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心をもつ。 ○時代区分の方法や年代の表し方（西暦・世紀・年号〔元号〕）について理解し、年表の見方を身に付ける。	歴史上の人物や建造物を通して、時代の特色や歴史の移り変わりに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	歴史上の人物や建造物をもとに、時代の特色や歴史の移り変わりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	歴史上の人物や建造物に関する資料を収集し、適切に選択して読み取ったりカードにまとめたりしている。	西暦・年号（元号）の紀年法や、世紀の区切り方、代表的な時代区分の方法について理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①小学校で学習した歴史上の人物を思い出そう。 ②③建造物と関わらせながら、人物をおおまかな年代でグループ分けしよう。 1	○小学校での歴史学習を振り返り、どのような人物がいたか関心をもつ。 ○人物と同時代につくられた建造物を確認し、おおまかな年代のグループに分ける。	小学校で学習した歴史上の人物について関心を高め、人物をおおまかな年代に分ける活動に意欲的に取り組んでいる。	教科書に示された人物のほかにも、学習した人物がいることに気づき、知っている人物を指摘している。	人物と建造物を関連づけながら、おおまかな年代にあてはめている。	人物が活躍したおおまかな年代や、同じ頃の建造物について理解している。
	④時代の分け方や年表の見方について確かめよう。 グループ分けした人物と建造物を、年表にあてはめよう。 1	○時代区分の方法や年代の表し方（西暦・世紀・年号〔元号〕）について理解する。 ○人物と建造物を年表にあてはめ、歴史の移り変わりについて気づいたことを話し合う。	年表をもとに、時代の特色や歴史の移り変わりについて、気づいたことを意欲的に話し合おうとしている。	年表に人物や建造物をあてはめる活動を通して、時代の特色や歴史の移り変わりについて多面的・多角的に考察している。	人物と建造物を教科書の年表に正しくあてはめている。	時代区分の方法や年代の表し方について、教科書の年表をもとに基本的事項を理解し、その知識を身に付けている。
	⑤みんなで分担して「人物カード」をつくろう。 ⑥みんなの「人物カード」を持ち寄って、カードをグループ分けしよう。 1	○人物の絵や写真を集め、名前や活躍した時代、行ったことを調べて「人物カード」にまとめる。 ○「人物カード」を政治や文化などで活躍した人物に分類する活動を通して、歴史上の人物が様々な働きをしていたことに気づかせる。	「人物カード」をつくり、グループ分けを行ったテーマについて具体的な事例や事象をもとに、意欲的に発表しようとしている。	選んだ人物が、小学校で学習した日本の歴史や自分たちの生活に、どのような関わりがあるのか、また、人物をどのようなグループに分けられるのかについて説明している。	小学校の教科書などを活用して、分担した人物の絵や写真を集め、名前や活躍した時代、行ったことを「人物カード」にまとめている。	歴史上の人物が、政治や文化など多様な分野で様々な働きをしていたことを理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 原始・古代の日本と世界	●節の評価規準					
	第1節 人類の出現と文明のおこり 4	○人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことや、宗教がおこったことを理解する。 ○それぞれの古代文明には、農耕や牧畜を基盤にして築かれたこと、文字の使用、国家がおこったことなど、共通する特色があることを理解する。	人類の出現や古代文明の発生、宗教のおこりに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	世界の古代文明の特色や宗教のおこりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	人類の出現や古代文明の特色、宗教のおこりに関して、考古学の成果をはじめとする様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	人々が農耕・牧畜を始め、世界各地で古代文明が築かれたことや、宗教がおこったことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①生きぬく知恵 1	○人類が進化する過程で、直立二足歩行や共同生活が果たした役割について考える。 ○人々が道具を発達させ、農耕・牧畜を始めたことで、暮らしや社会が変化し、やがて文明が形づくられていったことを理解する。	人類の進化や、狩猟・採集の生活から農耕・牧畜の生活へと暮らしを進歩させていく過程に関心を高め、意欲的に調べようとしている。	暮らしを豊かにするための人々の工夫について、道具の発達や農耕・牧畜の始まりなどから多角的に考察している。また、農耕・牧畜の始まりが社会に与えた影響を指摘している。	人類の進化と広がりや過程や、旧石器時代と新石器時代での暮らしの違いを、地図や写真などから読み取って整理している。	食料生産の高まりとともに人々の間に蓄え(富)の差が生まれ、人々を統治する支配者が現れるなかで、各地に文明が形づくられていったことを理解する。
	②エジプトはナイルの賜物 1	○ナイル川やチグリス川・ユーフラテス川の流域で、農耕や牧畜が盛んになり、エジプト文明とメソポタミア文明が形づくられていったことに気づく。 ○エジプト文明とメソポタミア文明の特色や、文字・暦・数学などが発達した理由について考える。	エジプト文明とメソポタミア文明の特色に関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	エジプト文明やメソポタミア文明の発展の過程で、文字・暦・数学などが発達した理由について考察している。	エジプト文明とメソポタミア文明の特色について、地図や写真などから読み取って整理している。	エジプト文明とメソポタミア文明の形成過程や特色を理解している。
③骨に刻まれた文字 1	○中国文明とインダス文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面から考え、世界各地でおこった古代文明を比べて共通する特色に気づく。 ○文明地域でおこった儒教や仏教が、アジア各地や日本に広まり、社会や人々に影響を与えたことに気づく。	中国文明とインダス文明の特色や、周辺地域への影響について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	中国・インドに芽生えた文明が、後に朝鮮・日本に影響を及ぼしたことや、発展していった過程を考察している。	世界の文明が、それぞれの地域の人々の知恵や大河などの自然の恵みとともに発展していることを、様々な資料を活用して読み取って整理している。	儒教や仏教がアジア各地や日本に広まり、社会や人々に与えた影響を理解している。また、世界各地でおこった古代文明を比べ、共通する特色に気づいている。	
④東と西をつなぐ道 1	○中国で統一国家が成立した後、ローマ帝国との交通路が開かれたことを理解するとともに、朝鮮半島の国々の動きに倭(日本)も関わっていることに気づく。 ○ローマ帝国では、実用的な文化が発展したことや、西アジアでおこったキリスト教が国教となり、やがてヨーロッパに広まっていったことを理解する。	中国とローマ帝国との交流に関心を高め、中国、朝鮮半島の国々やヨーロッパの動きを意欲的に調べようとしている。	中国とローマ帝国との交通路が開かれたことについて、その歴史的な役割を説明している。	中国とローマ帝国との交流の様子や、中国、朝鮮半島の国々やヨーロッパの動きについて、地図や写真から読み取って整理している。	中国で統一国家が成立し、ローマ帝国との交通路が開かれたことや、朝鮮では三国が成立したことを理解している。また、ローマ帝国で実用的な文化が発展したことや、キリスト教がおこり、ヨーロッパに広まっていったことを理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 原始・古代の日本と世界	●節の評価規準					
	第2節 日本の成り立ちと倭の王権 3	○日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしについて考える。 ○日本列島での農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。	日本列島での人々の生活の変化に対する関心を高め、国家が形成されていく過程について意欲的に追究しようとしている。	日本列島における農耕の広まりと生活の変化や、当時の人々の信仰、大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日本列島における農耕の広まりによる人々の生活の変化、大和政権による統一と東アジアとの関わりに関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	日本列島では農耕の広まりによって人々の生活が変化し、しだいに国家が形成されていったことを、東アジアとの関わりを通して理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑤日本列島のあけぼの 1	○氷河時代の日本列島に、大陸から旧石器時代の人々が移住してきたことを理解する。 ○縄文時代の人々の暮らしは、旧石器時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。	人々の暮らしが、旧石器時代と縄文時代とでどのように変化したかに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	縄文時代の人々の暮らしについて、旧石器時代との違いを指摘している。	縄文時代の人々の共同生活や暮らしの工夫について、絵や写真から読み取って整理している。	氷河時代の日本列島に、大陸から旧石器時代の人々が移住してきたことを理解している。
	⑥楽浪の海中に倭人あり 1	○弥生時代の人々の暮らしは、縄文時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。 ○稲作の広まりによって貧富や身分の差が生まれ、くに（国）の形成が進んだことを、邪馬台国を例に理解する。	『魏志』の倭人伝を読んで、邪馬台国の政治や人々の暮らしに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	むらからくに（国）が形成されていった社会的背景や、倭の国王や卑弥呼が中国に使いを送った理由について考察している。	縄文時代と弥生時代の暮らしの違いや、女王卑弥呼による邪馬台国の統治の様子について、絵や写真などから読み取って整理している。	稲作の広まりによる富の発生が、階級社会と、くに（国）の形成を促したことを理解している。
	⑦東アジアのなかの大和政権 1	○古墳の規模や分布などから、近畿地方で大王を中心とする大和政権が成立し、各地に勢力を拡大したことを理解する。 ○大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深め、盛んに交流した理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考える。	現在も残る古墳や渡来人の足跡に関心を高め、その由来や意義を意欲的に調べてまとめようとしている。	大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深め、盛んに交流した理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考察している。	大和政権の勢力の強さや広がりについて、古墳の規模や分布、出土品から読み取っている。	近畿地方の豪族が大王を中心に大和政権をつくり、各地に勢力を拡大したことや、渡来人が大陸の優れた技術や漢字・仏教などを伝えたことを理解している。
◆郷土の歴史を探ろう 地域の遺跡や古墳を訪ねて (1)	○身近な地域にある遺跡や古墳について様々な方法で調べたり、古代の暮らしを体験したりする活動を通して、地域の歴史に関心をもち、学び方を身に付ける。 ○縄文時代の文化の広がりについて、三内丸山遺跡を例に理解を深める。	身近な地域にある遺跡や古墳について関心を高め、テーマに基づいて調査し、意欲的に発表しようとしている。	身近な地域にある遺跡や古墳について様々な方法で調べたり、古代の暮らしを体験したりする活動を通して、当時の人々の知恵や生き方を推測している。	調査した結果を年表や報告書にわかりやすくまとめている。	縄文時代の文化の広がりについて、三内丸山遺跡を例に理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 原始・古代の日本と世界	●節の評価規準					
	第3節 大帝国の出現と律令国家の形成 3	○7～8世紀の世界では、東西に大帝國が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 ○日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。	7～8世紀の世界の動きや、日本と大陸との交流に対する関心を高め、律令国家が確立していく過程について意欲的に追究しようとしている。	聖徳太子の政治や飛鳥文化の特色、大化の改新と律令国家の確立について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	7～8世紀の世界の動き、聖徳太子の政治や飛鳥文化の特色、律令国家の確立に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界の東西に大帝國が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったところ、日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑧広がる国際交流 1	○東アジアでは、律令制を確立した唐が大帝國に発展し、新羅が朝鮮半島を統一したことを理解するとともに、進んだ制度や文化が日本に伝えられたことに気づく。 ○西アジアではイスラム教がおこり、イスラム世界（イスラム帝國）が成立して東西の交易で繁栄したことを理解する。	地図や写真などから隋・唐の繁栄と国際交流の広まりに関心を高め、政治制度や文化の発達について意欲的に追究しようとしている。	唐が大帝國に発展し、新羅が朝鮮半島を統一した過程や結果について、多面的・多角的に考察している。	唐を中心とする国際関係や東西の交流について、地図や写真から読み取ったり、図にまとめたりしている。	大帝國に発展した唐や、朝鮮半島を統一した新羅から、進んだ制度や文化が日本に伝えられたことに気づいている。また、西アジアでイスラム教がおこり、イスラム世界（イスラム帝國）が成立して繁栄したことを理解している。
	⑨あつく三宝を敬え 1	○蘇我氏と聖徳太子が、中国や朝鮮の国々にならった新しい政治を進めた理由について考える。 ○飛鳥文化は、大陸の影響を受けた仏教文化であり、渡来人の果たした役割が大きいことを理解する。	小学校での学習を生かして、蘇我氏と聖徳太子が進めた新しい政治や、飛鳥文化について意欲的に調べようとしている。	冠位十二階の制度や十七条の憲法をつくった意図について考察し、聖徳太子らが天皇中心の国づくりを目ざしたことを指摘している。	聖徳太子の政治や飛鳥文化の特色を写真などの資料から読み取り、図表にわかりやすくまとめている。	飛鳥文化は、大陸の影響を受けた日本で最初の仏教文化で、渡来人が大きな役割を果たしたことを理解している。
	⑩律令国家への歩み 1	○大化の改新や壬申の乱を経て、大宝律令が制定され、唐にならった律令国家が成立したことを理解する。 ○律令政治のしくみを理解し、天皇を中心とする中央集権の国家であることに気づく。	天皇を中心とする国家のしくみが整えられていく過程に関心を高め、意欲的に調べようとしている。	大化の改新や壬申の乱を経て、天皇の地位が高まったことを指摘している。	律令国家が成立する前と後で、政治の進め方について大きく変わった点と、変わらなかった点を表にまとめている。	大化の改新の目的と経緯や、大宝律令による中央集権国家のしくみを理解している。
	●節の評価規準					
	第4節 貴族社会の発展 4	○天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。 ○国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生まれていったことに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	天皇や貴族を中心とする政治が展開するなかで、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑪シルクロードにつながる道 1	○律令国家の都として平城京がつけられ、遣唐使らによって伝えられた国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解する。 ○奈良時代になって、国家により寺院の建設や歴史書の編纂が行われた理由について考える。	新たにつくられた平城京の様子に関心を高め、都の繁栄の背景について意欲的に調べようとしている。	遣唐使が、危険をおして何度も派遣された理由について考察している。また、国家により寺院の建設や歴史書の編纂が行われた理由について考察している。	平城京について写真や地図をもとに調べ、天皇・貴族の権力の大きさや、中国の影響を読み取って整理している。	律令国家の都として平城京がつけられ、遣唐使らによって伝えられた国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2章 原始・古代の日本と世界	⑫木簡と計帳は語る 1	○都の貴族の豊かな暮らしは、全国から集められる税によって支えられていた一方で、地方の農民にとっては、税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解する。 ○朝廷が墾田永年私財法を出した理由について考え、それにより公地公民の制度が崩れ始めたことに気づく。	貴族と農民の食事や住居から、奈良時代の人々の暮らしに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	墾田永年私財法が、農民の逃亡や土地の荒廃・不足を背景に出されたことを指摘し、公地公民の制度が崩れていく要因となったことを考察している。	奈良時代の「朝廷、貴族、農民」の関係を、図に表してまとめている。	班田収授の法や租・調・庸のしくみについて理解し、地方の農民にとって税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解している。
	⑬望月の欠けたることもなしと思えば 1	○桓武天皇は、律令政治の立て直しを図るため、平安京への遷都や東北地方への出兵などを行ったことを理解する。 ○平安時代に藤原氏が繁栄した背景・理由について、律令制や地方政治の変化、摂関政治との関わりから考える。	桓武天皇による律令政治の立て直しの後、藤原氏が栄えたことに注目し、その背景を意欲的に調べようとしている。	律令制や地方政治の変化と、貴族・寺社の勢力の伸長を関連づけて説明している。また、藤原氏が繁栄した理由について、天皇との関係や収入源から指摘している。	藤原氏と皇室の関係を系図から読み取り、摂関政治の特色を調べている。	桓武天皇は、律令政治の立て直しを図るため、平安京への遷都や東北地方への出兵を行ったことを理解している。
	⑭「以呂波」から「いろは」へ 1	○平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、かな文字の発達などから理解する。 ○唐に留学した最澄・空海により天台宗・真言宗が新たに開かれたことや、しだいに社会不安が高まるなかで、浄土の教えが広まったことに気づく。	平安時代の文化の代表的な例について関心を高め、意欲的に調べようとしている。	天台宗・真言宗が新たに開かれたことや、浄土の教えが広まったことの背景を、社会の動きと関わらせて説明している。	かな文字の発達を資料から読み取り、それまでの漢文との違いを調べている。	平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、かな文字の発達などから理解している。
	◆資料から歴史を探ろう 木簡が語る人々の暮らし ◆人物と地域から歴史を探ろう 坂上田村麻呂と阿弭流為の戦い (1)	○木簡の使われ方に関心を広げ、長屋王を例に、平城京での貴族の豊かな暮らしについて理解を深める。 ○朝廷による東北地方への支配拡大の動きから、古代の中央集権国家と蝦夷との関係について考えを深める。	木簡の様々な使われ方に関心を高め、平城京跡で発掘された木簡から何がわかるか意欲的に追究しようとしている。	阿弭流為が、朝廷と戦った理由について考察している。	戦いの絵巻などから、朝廷が東北地方の人々をどのように見ていたか読み取っている。	長屋王を例に、平城京での貴族の豊かな暮らしについて理解している。
	◆資料から歴史を探ろう 神話にみる古代の人々の信仰 (1)	○『古事記』や『日本書紀』、『風土記』などに神話が記されていること、それらの神話に由来する伝統的な行事も残されていることを理解する。 ○『古事記』に記された神話を通して、古代の人々の信仰やものの見方について考える。	『古事記』に記された神話から何がわかるか意欲的に追究しようとしている。	神話から、古代の人々がどのような信仰やものの見方をしていたと考えられるか、自分なりの言葉で説明している。	神話に由来する伝統的な行事や、世界の神話について調べている。	現在にも、神話に由来する伝統的な行事などが残されていることを理解する。
	★学習のまとめと表現 2	○原始・古代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○原始・古代から中世へ時代がどのように変化していったのか、政治の担い手に着目して関心をもつ。	貴族や天皇を中心とした政治がどのように変わっていったのか意欲的に予想しようとし、古代から中世への時代の変化に関心を高めている。	原始・古代のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	原始・古代の舞台となった場所を地図にまとめたり、時代の特色について歴史新聞にまとめたりしている。	原始・古代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 中世の日本と世界	●節の評価規準					
	第1節 世界の動きと武家政治の 始まり 5	○13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸をまたぐ広大なモンゴル帝国（元）が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 ○日本では、武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解するとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。	10～13世紀ごろの世界の動きや、日本で武士が台頭して鎌倉幕府が成立したことに對する関心を高め、その支配が全国に広まるなかで生まれた社会や文化について、意欲的に追究しようとしている。	東アジアや中世ヨーロッパの国際関係、鎌倉幕府の成立と武家政治の広まり、禅宗の文化的な影響について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	東アジアや中世ヨーロッパの国際関係、鎌倉幕府の成立と武家政治の広まり、禅宗の文化的な影響に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	広大なモンゴル帝国（元）が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったころ、武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まるとともに、武士や民衆の活力を背景に新たな社会や文化が生まれたことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①大陸をまたぐ大帝国 1	○東アジアでは宋が中国を、高麗が朝鮮半島を統一し、商業や文化が発達して、宋銭・朱子学などが日本にもたらされたことを理解する。 ○モンゴル帝国（元）が東アジアから東ヨーロッパまで支配を拡大し、交通路も整えられたことで、東西の貿易や文化交流が盛んになったことに気づく。	『世界の記述（東方見聞録）』や地図をながめながら、13世紀ごろの世界の様子に関心を高め、宋・高麗から日本にもたらされた文化や、モンゴル帝国の広がりや東西交流の様子について意欲的に調べようとしている。	「チバング（日本）」が『世界の記述（東方見聞録）』でヨーロッパに紹介されるなど、モンゴル帝国（元）の支配の拡大にともなって、東西の貿易や文化交流がいつそう盛んになったことを考察している。	宋・元や高麗との交流や貿易により、日本にもたらされた文化や学問について、本文や資料から読み取って整理している。	宋の中国統一や高麗の朝鮮統一から、やがてモンゴル帝国が広大な地域を支配していくなかで、商業や文化が発達し、宋銭・禅宗・朱子学などが日本にもたらされたことを理解している。
	②貴族から武士へ 1	○武士がおこった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について考える。 ○院政のもとでしだいに武士が地位を高め、平氏が武士として初めて政権を握ったことを理解する。	平安時代の中ごろに登場した武士がしだいに勢力を伸ばし、ついに政権を握ったことに對する関心を高め、その過程を意欲的に追究しようとしている。	絵巻物に描かれた戦いの場面をもとに、武士が地位を高めた理由について朝廷との関連をふまえて考察し、説明している。	「白河上皇の警護をする武官」の絵や「武士団のしくみ」の図を活用し、武士が勢力を伸ばしていった理由について調べている。	平氏が武士として初めて政権を握ったことや、政権は広大な公領や荘園の支配を基盤にしていたことを理解している。
	③「一所懸命」の戦い 1	○源平の争いから鎌倉幕府の成立までの経緯、守護や地頭の権限について理解し、武家と公家の二つの政府による支配が始まったことに気づく。 ○土地を仲立ちとした将軍と御家人との主従関係のしくみが、武士の暮らしと深く関わっていることを理解する。	源平の争いから鎌倉幕府が成立するまでの過程に関心を高め、武士たちを幕府のもとにまとめていったしくみについて意欲的に調べようとしている。	朝廷の勢力が衰えていないなかで、武家政権を確立するために頼朝がつくったしくみや行った政策を、平氏の政治と比較して多角的に考察している。	「武士の館」や「笠懸」の絵を活用し、武士の暮らしの特色や心構えなどについて調べている。	源平の争いから鎌倉幕府の成立までの経緯、守護や地頭の権限、封建制度のしくみについて理解している。
④いざ鎌倉 1	○北条氏の執権政治について理解するとともに、承久の乱で御家人たちが幕府側に結集した理由について考える。 ○承久の乱ののち、幕府の支配は西国まで広がり、御成敗式目も制定されて武家政治が安定していったことを理解する。	「北条氏追討の命令」と「北条政子の訴え」を読みながら、朝廷と幕府の勢力関係や、将軍と御家人の関係について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	承久の乱で御家人たちが幕府側に結集した理由について、「北条政子の訴え」をもとに考察し、説明している。	「鎌倉幕府のしくみ」の図や「承久の乱と、その後の動き」の地図、「御成敗式目」などの資料を活用し、幕府の支配が西国まで広がり、武家政治が安定していった理由を読み取っている。	北条氏の執権政治について理解するとともに、承久の乱の後に武家政治が広がり、安定していったことに気づいている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 中世の日本と世界	⑤ 祇園精舎の鐘の声 1	○農業の技術や生産の高まりを背景に、農民たちが結びつきを強めていったことや、定期市が開かれて商人の活動も盛んになったことを理解する。 ○鎌倉時代に生まれた新しい仏教や文化の特色について、武士や民衆の暮らしとの関わりから考える。	「東大寺南大門」や「金剛力士像」を観察して、鎌倉時代の文化の特色を意欲的に発表しようとしている。	民衆の暮らしが向上している様子を農業技術や商業の発達と関わらせて考察している。また鎌倉仏教が中世を通して多くの人々の心をとらえて広まっていった理由を、教えの特色や社会の動きと関連させて考察している。	「東大寺南大門」や「金剛力士像」の写真を観察し、既習の時代の文化と比較しながら表にまとめている。	鎌倉仏教や文化の特色について理解するとともに、農業技術や商業の発達と、それにもなう生活の向上について理解している。
	◆資料から歴史を探ろう 地頭を訴える農民 中世の市を訪ねて (1)	○「阿氏河荘の申し状」の文書を読み解き、荘園に住む農民たちの暮らしや、荘園領主・地頭・農民たちの関係について理解を深める。 ○「福岡の市」の絵を読み解き、産業の発達や貨幣の流通、定期市の立地などについて理解を深める。	「福岡の市」の絵から一遍が切れようとしている場面に関心を高め、鎌倉時代の生活や仏教について意欲的に調べようとしている。	荘園に住む農民たちの暮らしや、荘園領主・地頭・農民たちの関係について説明している。	「阿氏河荘の申し状」の資料を読み、誰が、誰に対し、何を申し出ているのかを読み取っている。	荘園に住む農民たちの暮らしや、荘園領主・地頭・農民たちの関係について理解している。
	◆郷土の歴史を探ろう 地域の寺社や墓碑を訪ねて (1)	○身近な地域にある寺社や墓碑について様々な方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。 ○元寇の背景や影響について、元使塚や千人塚を例に理解を深める。	身近な地域にある寺社や墓碑に関心を高め、テーマに基づいて調査し、意欲的に発表しようとしている。	その時代の歴史的な状況に対する理解を深め、登場人物を通して、様々な立場から歴史的事象を説明している。	調査した結果を絵巻物にわかりやすくまとめている。	元寇の背景や影響について、元使塚や千人塚を例に理解している。
●節の評価規準						
第2節 ゆれ動く武家政治と社会 7	○南北朝の争乱と室町幕府の成立、応仁の乱後の社会的な変動と戦国の動乱について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。 ○農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の特色をとらえようとするとともに、文化遺産を尊重しようとする。	自治的なしくみの発生、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化の誕生といった社会の変化を、農業をはじめとする諸産業の発達、政治の動きなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開、経済の発達と社会の変化、室町文化に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	農業をはじめとする諸産業が発達し、都市や農村に自治的なしくみが生まれたことや、武士や民衆の活力を背景にした新しい文化が生まれたという社会の変化を理解し、その知識を身に付けている。	
●各単元の評価規準						
⑥ 海から押し寄せる元軍 1	○元寇の経過について、高麗や南宋などの東アジア情勢と関わらせて理解する。 ○元寇が幕府政治に及ぼした影響や、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などとの関わりから考える。	「蒙古襲来絵詞」を見て元寇への関心を高め、元寇が幕府に与えた影響や幕府滅亡の要因を、御家人の衰退と悪党の出現に関連づけて意欲的に調べようとしている。	元軍が敗退した原因を、元軍の構成や御家人の奮戦など多角的に考察し、元寇が朝鮮や鎌倉幕府・御家人に与えた影響を推測している。	「蒙古襲来絵詞」の絵を観察して、御家人が元軍に苦戦した理由を、人数や武器等の観点から読み取っている。	御家人の窮乏やそれに対する徳政令など、元寇が幕府政治に及ぼした影響と、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などに関わらせて理解している。	
⑦ このごろ都にはやるもの 1	○建武の新政が失敗した理由について考えるとともに、南北朝の争乱が続くなかで、地方の守護が力を強めていったことを理解する。 ○室町幕府のしくみをとらえ、幕府は有力な守護大名によって支えられていたことに気づく。	建武の新政から南北朝の内乱に至る経過や、内乱がもたらした武家社会の変化を、守護大名の台頭に注目しながら意欲的に調べようとしている。	建武の新政が失敗し南北朝の内乱に至った経緯を、後醍醐天皇の政治方針と武士の要求・利害の違いなどから指摘している。	「鴨川（京都）の河原に立てられた札」（二条河原の落書）の資料から社会の様子を読み取るとともに、「主な守護大名と、その領地」の地図から多くの守護大名によって幕府が支えられていたことを読み取っている。	室町幕府が義満の時代に権力を集中させたことや、幕府の特徴として将軍と守護大名の連合政権であったことを理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3章 中世の日本と世界	⑧行き交う海賊船と貿易船 1	○中国や朝鮮半島で倭寇の活動が活発化するなか、明や朝鮮が成立し、日本と国交を結んで貿易を行ったことを理解する。 ○明との貿易で勘合を用いた理由や、足利義満が「日本国王」を名のった理由について考える。	足利義満が「日本国王」と名のった理由に関心を高め、日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで意欲的に調べようとしている。	足利義満が「日本国王」と名のった理由や、日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで考察している。	日本と明・朝鮮との関係を、貿易品やもたらされた文化などにふれながら図にまとめている。	日本と明・朝鮮が国交を結んで貿易を行うなかで、日明貿易が「勘合」を用いて行われた理由を「倭寇」との関わりで理解している。
	⑨北と南で開かれた交易 1	○琉球では、琉球王国が東アジアと東南アジアの国々を結ぶ中継貿易で栄え、独自の文化を発展させたことを理解する。 ○蝦夷地では、先住民として暮らすアイヌ民族がまとまりを強め、交易を行うなかで和人との争いも起こったことを理解する。	琉球では琉球王国が中継貿易で栄え、蝦夷地でもアイヌ民族がまとまりを強めて和人と交易を行う暮らしをしていたことを理解し、両地域の独自の文化を意欲的に調べようとしている。	独自の文化が発達した背景について、琉球王国が東南アジアや東アジアとの交流を、アイヌ民族が大陸との交易など独自の交易ルートをもっていたことと関連づけて推測している。	アイヌ民族や琉球王国はどんな地域と交易していたかを、「15世紀ごろの琉球王国やアイヌ民族の交易ルート」を活用して調べている。	琉球では琉球王国が中継貿易で栄え、蝦夷地でもアイヌ民族がまとまりを強めて和人と交易を行う暮らしをしていたことを理解している。
	⑩団結する村、にぎわう町 1	○農業生産の向上を背景に、生活の取り決めや他村との交渉など、惣による自治を行う村もみられるようになったことに気づく。 ○産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解する。	惣や町衆など民衆の自治組織が発達し力が伸びてきた背景には、産業の発達があることに関心を高め、農業や商業・手工業などの産業の様子を意欲的に発表しようとしている。	農業や商業・手工業の発達が、惣・町衆など民衆の自治組織の発達や都市の発展に結びついていくことを考察している。	農業や手工業などの産業の発達の様子を、「月次風俗図屏風」などの資料を活用して調べている。	産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解している。
	⑪下剋上の世へ 1	○徳政や自治を求め一揆が繰り返され起こった背景には、力を強める民衆の団結があったことに気づく。 ○応仁の乱ののち、下剋上の風潮が広がるなかで、各地に戦国大名が割拠し、実力で領国を支配したことを理解する。	この時代に土一揆が多発したことに対する関心を高め、一揆を起こした民衆の要求や一揆の結果を意欲的に追究している。	戦国大名が各地で台頭した背景を、応仁の乱や下剋上の風潮と関連づけて考察し、説明している。	「武田信玄の分国法」の資料を読み、当時の戦国大名が家臣に対して定めたままりの内容やその目的を読み取っている。	応仁の乱以降、下剋上の風潮が強まるなかで起きた各地の一揆の要求と特色を知り、その背景には民衆の自治の進展があったことを理解している。また、戦国大名が実力で国内を支配していったことを理解している。
	⑫今につながる文化の芽生え 1	○室町文化の特色について、武家と公家の交流、禅宗の影響、民衆への広まりなど、政治的・社会的な背景との関わりから理解する。 ○室町文化のなかには、能や狂言、書院造、茶の湯など、今日まで受け継がれているものが多いことに気づく。	日本の伝統文化に関心を高め、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを意欲的に見つけ出そうとしている。	中世（武士の時代）の文化を古代（貴族の時代）の文化と比較しながら、文化の担い手・主な文化遺産・文学などの項目について指摘している。	金閣・銀閣などの写真資料から、室町時代の文化の様子を、他の時代の文化と比較して読み取っている。	室町文化の特色について、武家と公家の交流、禅宗の影響、民衆への広まりなど、政治的・社会的な背景との関わりから理解している。
	◆人物から歴史を探ろう 働く女性や子どもたち ◆地域から歴史を探ろう 戦乱の世の自治と領国経営 (1)	○中世の社会で働く女性や子どもたちのすがたに関心を広げ、社会で果たした役割について考えを深める。 ○戦乱の世が続くなか、人々が平和や自治を求めて一揆を起こした様子や、浄土真宗（一向宗）の勢力が強まっていったことについて理解を深める。	「主な一揆の発生地」に関心を高め、土一揆以外にも様々な一揆があったことを意欲的に調べようとしている。	一向一揆や国一揆について、目的や起こした人々、結果や影響などの観点から考察している。	「建築現場で働く子ども」や「機を織る女性」「米を売る女性」の絵を活用し、中世の時代の子どもの女性や女性などのような場面で活躍しているのかを読み取っている。	戦乱の世が続くなか、人々が平和や自治を求めて一揆を起こした様子や、浄土真宗（一向宗）の勢力が強まっていったことを理解している。
	★学習のまとめと表現 2	○中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特徴をとらえる。 ○中世から近世へ時代がどのように変化していったのか、風景画や貨幣の違いに着目して関心をもつ。	中世と近世の風景画や貨幣の違いについて意欲的に発表したり、その意味を予想したりして、中世から近世への時代の変化に関心を高めている。	中世のできごとや動き、時代の特徴について考察し、自分なりの言葉で説明している。	中世の舞台となった場所を地図にまとめている。	中世の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 近世の日本と世界	●節の評価規準					
	第1節 結びつく世界との出会い 4	○14～16世紀のヨーロッパでは、ルネサンスや宗教改革、アジアへの新航路の開拓などの動きがおり、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に來航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革、新航路開拓等、14～16世紀に起こった歴史的事象に対する関心を高めるとともに、ヨーロッパ人の來航による日本の社会への影響を意欲的に調べようとしている。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革、新航路開拓等、14～16世紀に起こった歴史的事象の特色と、ヨーロッパ人の來航による日本への影響などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ社会におけるルネサンスや宗教改革、新航路開拓等、14～16世紀に起こった歴史的事象や、ヨーロッパ人の來航による日本への影響に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	ルネサンスによってもたらされた新しい文化や学問・科学・思想などが、宗教改革や新航路開拓に結びついて、ヨーロッパが近世社会として発達していくことを理解するとともに、ヨーロッパ人の來航による日本への影響に関する知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①教会と『コーラン』の教え 1	○中世のヨーロッパでは、キリスト教・カトリック教会を中心とする文化圏がつけられたことや、イスラム世界では、様々な地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことを理解する。 ○中世の地中海地域で、キリスト教勢力とイスラム勢力との対立が続いた理由について考える。	11世紀の末に十字軍がエルサレムに派遣されたことに関心を高め、中世のヨーロッパで、キリスト教勢力とイスラム勢力がどのような社会や文化を形成し、対立するようになったのか意欲的に調べようとしている。	イスラム世界で他地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことについて、その背景をイスラム世界の広がりや接する国々との関係から考察している。	「エルサレムを占領する十字軍」の絵や「十字軍の派遣」の地図を読み取り、キリスト教勢力とイスラム勢力の対立についての理解に活用している。	中世のヨーロッパでは、キリスト教・カトリック教会を中心とする文化圏がつけられたことや、イスラム世界では、様々な地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことを理解している。
	②中世からの脱却 1	○中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由について、都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて考える。 ○西アジアや南アジアでは、オスマン帝国やムガル帝国などのイスラム世界が広がり、アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解する。	「中世の三美神」と「春」を比較し、その違いを見つけようとするとともに、ルネサンスや宗教改革が起こった背景を都市の繁栄やカトリック教会の教義と関わらせてながら意欲的に調べようとしている。	中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由を、都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて考察している。	ルネサンスの動きや人々が求めた表現・考え方について、「中世の三美神」と「春」の絵を見比べながら調べている。	ヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由を、都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて理解するとともに、同時期に西アジアや南アジアでは、イスラム世界が広がり、アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解している。
	③太陽の沈まない国 1	○アジアとの貿易やキリスト教の布教を目的として、スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めたことを理解する。 ○ヨーロッパ諸国が、アジアやアフリカ、中南アメリカに進出して植民地を築き、その資源や貿易によって勢力を強めていったことに気づく。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由に関心を高め、アジアとの貿易やキリスト教の布教が目的であったことを意欲的に調べようとしている。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由を、アジアとの貿易やキリスト教の布教と関わらせて考察している。	ヨーロッパ諸国が進出していった地域を「16世紀ごろの世界」の地図から読み取り、スペインが「太陽の沈まない国」といわれたわけを調べている。	スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めた理由を、貿易やキリスト教の布教と関わらせて理解している。
	④戦国の世に現れた南蛮人 1	○鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易について、ヨーロッパ諸国の世界進出と関わらせて理解する。 ○鉄砲やキリスト教が戦国大名を中心に広まった理由や、社会に及ぼした影響について考える。	スペインやポルトガルがもたらしたものの文化に関心を高め、ヨーロッパ人の來航が日本に与えた影響を意欲的に追究しようとしている。	鉄砲やキリスト教に戦国大名が注目した理由や、その広がりが社会に及ぼした影響等について、時代背景をふまえて考察している。	「南蛮屏風」の絵に描かれたものや様子を読み取り、南蛮貿易やキリスト教の広がりについての理解に活用している。	鉄砲とキリスト教の伝来が戦国時代の日本社会に与えた影響を理解している。
	◆世界から歴史を探ろう 銀で結びつく世界 宣教師が見た日本 (1)	○南蛮貿易が、日本の銀の入手を主要な目的として行われていたことに気づき、銀を通じた日本と世界との結びつきについて理解を深める。 ○來日したヨーロッパ人の日本人観に関心を広げ、天正遣欧使節が派遣された背景について理解を深める。	バリニャーノの報告書の内容に関心を高め、当時のヨーロッパ人が日本をどのように見ていたかを意欲的に調べようとしている。	銀を通じた日本と世界の結びつきについて、南蛮人が來日した主要な目的をふまえて考察している。	「16～17世紀の銀の航路」の地図を活用して、日本と世界の結びつきを表現するのに役立てている。	來日したヨーロッパ人の目的が布教と貿易にあったことや、天正遣欧使節が派遣された背景を理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 近世の日本と世界	●節の評価規準					
	第2節 天下統一への歩み 3	○織田・豊臣による全国の統一事業や、朝鮮への出兵などの対外関係についてとらえ、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。	戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣の時代の政治や社会の大きな変化と対外関係のあらまし、武将や豪商などの生活文化の展開に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係のあらましなどから、中世から近世への政治や社会の大きな変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係のあらましなどに関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	織田・豊臣の時代の政治や社会の大きな変化と対外関係のあらまし、武将や豪商などの生活文化の展開を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑤天下統一を目ざして 1	○織田信長や豊臣秀吉は、戦国大名や寺院勢力などと戦い、武力による天下統一を進めていったことを理解する。 ○楽市・楽座や関所の廃止など、信長が行った政策のねらいについて考える。	信長と秀吉の人物像に関心を高め、逸話などを発表しながら、信長の政策の内容やねらいを意欲的に調べようとしている。	楽市・楽座や関所の廃止など、信長が行った政策のねらいについて、旧来の寺院・公家勢力の弱体化と関連づけながら考察している。	「長篠の戦い」の絵を活用し、信長の戦い方の特色を調べている。	信長と秀吉による全国統一の過程や、統一事業に向けた信長の政策のあらましを理解している。
	⑥近世社会への幕開け 1	○豊臣秀吉が命じた太閤検地や刀狩、身分統制によって兵農分離が進み、近世社会の基礎がつくられていったことを理解する。 ○秀吉がキリスト教の布教を禁止した理由や、朝鮮への出兵が内外にもたらした影響に気づく。	秀吉の朝鮮侵略や他の政策について関心を高め、その内容やねらいを意欲的に追究しようとしている。	兵農分離の政策によって社会の枠組みがどのように変化したかを、中世の社会と比較して考察し、説明している。	「刀狩令」や「検地」の資料を読み取り、秀吉の兵農分離政策の理由やねらいの説明に活用している。	豊臣秀吉の太閤検地や刀狩、身分統制等の政策のあらましと、それにより兵農分離が進み、近世社会の基礎がつくられていったことを理解している。
	⑦城と茶の湯 1	○ヨーロッパや東アジアから新たな文化がもたらされ、生活にも広く取り入れられていったことに気づく。 ○桃山文化の特色や民衆の文化の広がりについて、戦国大名や豪商などの担い手、戦乱の世相との関わりから理解する。	「唐獅子図屏風」や「姫路城」の写真を観察して桃山文化に関心を高め、それが生まれた背景を意欲的に調べようとしている。	桃山文化の特色について、生活に根ざした文化の広がりや武将・豪商の経済力などの時代背景から考察している。	「唐獅子図屏風」や「姫路城」の写真を観察して、桃山文化の特色を読み取っている。	桃山文化と、ヨーロッパ人の来航によってもたらされた南蛮文化について、その特色や内容について理解している。
	●節の評価規準					
	第3節 幕藩体制の確立と鎖国 4	○江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子をとらえ、幕府の政治の特色について考えるとともに、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立と幕藩体制、農村の様子などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立と幕藩体制など、幕府の政策の特色や農村の様子などについて、為政者の立場からだけでなく多面的・多角的に考察・判断し、その過程や結果を適切に表現している。	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立と幕藩体制など、幕府の政策や農村の様子などに関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、身分制度の確立および農村の様子を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑧泰平の世の土台づくり 1	○江戸幕府の成立の経緯とともに、大名の配置や領地替え、武家諸法度などの政策によって、幕府が全国の名を統制したことを理解する。 ○幕府が、諸大名に対して軍事的・経済的に優位に立っていたことや、幕藩体制のしくみにより藩の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。	家康の人物像に関心を高め、徳川幕府が長く政権を維持した理由を意欲的に追究しようとしている。	大名の配置替え、武家諸法度、参勤交代などの政策のねらいについて、幕府の立場から考察し、説明している。	「主な大名の配置」の地図や「武家諸法度」の資料を活用し、幕府がどのように大名統制をしていたかを読み取っている。	江戸幕府成立の経緯とともに、大名の配置や領地替え、武家諸法度などの政策の内容やねらいを理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 近世の日本と世界	◆資料から歴史を探ろう 大名行列と藩の財政 (1)	○「会津藩主参勤交代行列図」の絵や藩の財政に関するグラフを読み解き、参勤交代の様子について理解を深めるとともに、幕府がこうした制度を設けたねらいについて考えを深める。	大名行列の規模に関心を高め、参勤交代の制度を意欲的に調べようとしている。	幕府が参勤交代を大名に命じた理由を、幕府や将軍の立場で考察し、説明している。	「会津藩主参勤交代行列図」の絵を観察し、人々が何を持っているか読み取っている。	参勤交代の制度を幕府が設けたねらいについて理解している。
	⑨東南アジアに広がる日本町 1	○江戸時代の初めには、東南アジアの国々との朱印船貿易が盛んになり、各地に日本町ができたことを理解する。 ○幕府が外交政策を転換し、「鎖国」に至る過程をとらえるとともに、その理由について、キリシタンの増加、貿易や海外情報の独占との関わりから考える。	「絵踏の様子」に関心を高め、幕府が貿易の奨励から一転して「鎖国」に政策転換した理由を意欲的に調べようとしている。	朱印船貿易から「鎖国」に至る主なできごとを挙げて、外交政策の変化と「鎖国」の理由について、幕府の貿易と海外情報の独占に関わらせて考察している。	貿易の奨励から「鎖国」へ政策を転換した経緯を、「『鎖国』への歩み」の年表に整理しながら読み取っている。	朱印船貿易の様子を知るとともに、島原・天草一揆が幕府の外交政策に与えた影響を理解している。
	⑩開かれた窓 1	○鎖国下においても、長崎・対馬・琉球・松前の窓口を通じて、オランダや中国、朝鮮、蝦夷地などと、交易や交流が行われていたことに気づく。 ○琉球王国や蝦夷地のアイヌの人たちに対し、薩摩藩や松前藩が支配を強めていく過程を理解する。	交易や文化交流に果たした朝鮮・琉球の役割や、アイヌの人たちの暮らしに対する関心を高め、現在に残る文化を大切にしようとしている。	鎖国下の日本で、多くの学者が長崎を訪れるようになった理由を、交易の窓口や相手国などの観点から推測している。	「長崎の港と出島」の絵を観察して、中国やオランダとの貿易の様子を読み取るとともに、出島の特徴をまとめている。	幕府の外交政策が、中国・オランダ・朝鮮・琉球・蝦夷地に対してどのように行われたのか理解している。
	⑪身分ごとに異なる暮らし 1	○幕府や藩が人々を支配するうえで、身分制度が果たした役割や、えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けた理由について考える。 ○村や町に住む人々の暮らしの様子について、幕府や藩による民衆支配との関わりから理解する。	江戸時代に確立した身分制度による差別が、現在も残っていることに関心を高め、差別を許さないという態度をとろうとしている。	身分制度が果たした役割を為政者の立場で考察するとともに、えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けた理由について推測している。	グラフや絵から、江戸時代の身分とそれぞれの職分や暮らしの様子について調べ、表にまとめている。	村や町に住む人々の暮らしの様子や、特に農民に課せられていた年貢などの負担について、幕府や藩による民衆支配との関わりから理解している。
●節の評価規準						
第4節 経済の成長と幕政の改革 5	○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりについてとらえ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。 ○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化、江戸幕府の政治改革について理解するとともに、新しい学問・思想の動きに気づく。	経済の発達と都市の繁栄、町人文化や各地方の生活文化、政治の行き詰まりと繰り返される政治改革、新しい学問や思想などに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	経済の発達と都市の繁栄、町人文化や各地方の生活文化、政治の行き詰まりと繰り返される政治改革、新しい学問や思想について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	経済の発達と都市の繁栄、町人文化や各地方の生活文化、政治の行き詰まりと繰り返される政治改革、新しい学問や思想に関する資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	繰り返される政治改革の内容や、町人文化が都市を中心に形成されたこと、各地方の生活文化が生まれたことを理解し、その知識を身に付けている。	
●各単元の評価規準						
⑫将軍のおひざもと、天下の台所 1	○新田開発や農林水産業が盛んになった背景には、生活の向上を願う人々の工夫や努力があったことに気づく。 ○商品の流通の拡大や、街道・航路などの交通の発達にもなって、江戸・大阪・京都を中心に各地で都市がにぎわい、有力な商人も現れたことを理解する。	新田開発や農業技術の発達に関心を高め、江戸時代に由来する地名・史跡を地図で意欲的に調べようとしている。	江戸時代に都市が発達した理由を、幕府や藩の財政政策や農業技術の進歩、物資の流通などの視点から考察している。	「江戸時代の農具の進歩」の絵から、農具の役割や作業効率について調べるとともに、大阪や江戸の都市の賑わいを表した絵を活用して、経済や都市の繁栄について調べている。	三都をはじめとする都市の繁栄を、農業・林業・水産業などの生産増大や、交通・商業の発達と関わらせて理解している。	
◆郷土の歴史を探ろう 地域の街道や港を訪ねて (1)	○地域を通る街道や港について様々な視点や方法で調べる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。 ○江戸時代の交通と各地の結びつきについて、箱根関所や北前船などを例に理解を深める。	身近な地域にある江戸時代の街道や港について関心を高め、テーマに基づいて調査し、意欲的に発表しようとしている。	身近な地域にある江戸時代の街道や港について、設定したテーマに基づいて当時の各地との結びつきを考察している。	調査した結果を年表や報告書にわかりやすくまとめている。	江戸時代の交通と各地の結びつきについて、箱根関所や北前船などを例に理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第4章 近世の日本と世界	⑬花開く町人文化 1	○都市の発展を背景に、町人を担い手とする元禄文化が、上方を中心に生まれたことを理解する。 ○民衆の衣食住の変化や年中行事などの暮らしぶりをとらえ、現代の暮らしにもつながる部分が多いことに気づく。	浮世絵や装飾画、庶民が歌舞伎を楽しむ様子の絵などを観察しながら元禄文化に関心を高め、その特色について意欲的に調べようとしている。	近世の文化のなかには、歌舞伎・年中行事など、現代に受け継がれているものが多いことを指摘している。	文学作品や美術品を鑑賞して、元禄文化の担い手や特色を読み取っている。	都市の発展を背景に、町人を担い手とする元禄文化が上方を中心に生まれたことや、その内容について理解している。
	⑭連判状にまとまる人々 1	○徳川綱吉は儒学を重んじる政治を進めたものの、幕府の財政は悪化し、新井白石が財政の立て直しに取り組んだことを理解する。 ○人々が百姓一揆や打ちこわしを起こすようになった背景・原因には、貨幣経済の広まりによる貧富の差の拡大や、年貢・税の負担増などがあったことに気づく。	「傘連判状」の署名の工夫に関心を高め、百姓一揆や打ちこわしが増加していく原因を、貨幣経済の広まりや天災・凶作と関わりながら意欲的に調べようとしている。	貨幣経済の広まりや天災・凶作などによって、農家の間で貧富の差が拡大するなど、農村の変化について、幕府の統制策を含めて多角的に考察している。	百姓一揆や打ちこわしが増加した背景と原因について、「百姓一揆・打ちこわしの発生件数の移り変わり」のグラフを活用して調べている。	綱吉の政治のあらましや農民たちが百姓一揆を起こした原因、幕藩体制に与えた影響について理解している。
	⑮繰り返される政治改革 1	○幕府による享保の改革、田沼の政治、寛政の改革を比べ、それぞれの改革の目的や手段、結果について理解する。 ○幕府政治の改革が成功せず、繰り返し行われた理由について、幕府の財政難や人々の生活苦、社会の変化などとの関わりから考える。	政治改革に対する民衆の様々な思いに関心を高め、それらの改革に対して起こった民衆の反応や事件を民衆の立場になって考えようとしている。	幕府による一連の政治改革を、推進した人物・政策とねらい・民衆の動き・社会的な事件・改革の結果などの観点から整理して考察している。	改革に対する民衆の反応を、「寛政の改革を風刺する狂歌」から読み取っている。	幕府による享保の改革、田沼の政治、寛政の改革を比べ、それぞれの改革の目的や手段、結果について理解している。
	⑯「読み・書き・そろばん」の習い 1	○幕府や藩が朱子学を奨励した理由や、新たに生まれた国学・蘭学などの学問がもたらした影響について考える。 ○化政文化が江戸の町人を中心に栄えた一方で、各地に寺子屋や藩校が開かれ、地方にも文化が広がったことを理解する。	『解体新書』をはじめ、この時期の学問、文学、美術などの作品に関心を高め、化政文化の特色について意欲的に調べようとしている。	化政文化の特色とともに、国学や蘭学の発達が社会に与えた影響を考察している。	文学作品や「歌川広重の風景画」を鑑賞し、元禄文化と比較しながら化政文化の特色を読み取っている。	化政期に生まれた新しい学問や思想・文化などの特色・内容・時代背景について理解している。
	◆人物から歴史を探ろう リサイクル都市・江戸の町人 (1)	○江戸の町のにぎわいや、町人たちの暮らしの様子に関心を広げ、資源を有効に利用していた人々の知恵について理解を深める。	江戸の町のにぎわいや、町人たちの暮らしの様子に関心を高め、様々なリサイクルや同時期のヨーロッパについて意欲的に調べようとしている。	江戸に暮らす町人の様々なリサイクルについて、自分たちの暮らしと比較し、その特色を多面的・多角的に考察している。	江戸に暮らす町人の様々なリサイクルや、同時期のヨーロッパの様子に関する資料を収集し、読み取っている。	資源を有効に利用していた江戸の町人たちの知恵について理解している。
	★学習のまとめと表現 2	○近世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○近世から「近代の幕開け」へ時代がどのように変化していったのか、外国との関係に着目して関心をもつ。	外国の軍艦が江戸湾に現れた時の幕府の対応や、その影響について意欲的に予想しようとし、近世から「近代の幕開け」への時代の変化に関心を高めている。	近世のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	近世の舞台となった場所を地図にまとめたり、時代の特色についてミニレポートにまとめたりしている。	近世の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第5章 近代の幕開け	●節の評価規準					
	第1節 近代世界の確立とアジア 5	○欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことを理解する。	市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	市民革命が起こった背景や産業革命がもたらした影響について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	議会政治の始まりや産業革命によって資本主義社会が成立したこと、それともなうアジアへの影響について、様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアに進出したことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①王は君臨すれども統治せず 1	○16～17世紀のイギリスやフランスでは、絶対王政が成立し、国王による専制政治が行われたことを理解する。 ○イギリスで革命があいこいで起こり、立憲君主制による議会政治が成立したことを理解するとともに、フランスで啓蒙思想の広まりがもたらした影響に気づく。	イギリスやフランスの絶対王政に関心を高め、なぜイギリスで革命があいこいで起こったのか意欲的に調べようとしている。	イギリスの二つの革命の前後で、国王と議会の関係がどのように変わったか説明している。	イギリスで議会政治が始まるまでの過程や、革命を支えた啓蒙思想家について、年表や資料を活用して調べている。	イギリスやフランスでは絶対王政が成立し、イギリスでは市民階級が絶対王政を打ち倒し、民主主義政治の発展に道を開いた市民革命が起こったことを理解している。
	②代表なくして課税なし 1	○アメリカの独立戦争の経緯や独立宣言から、植民地の人々がイギリス本国に対して求めた権利について考える。 ○フランス革命がそれまでの身分社会を否定し、自由で平等な社会への道を開いたことを理解し、国民議会による人権宣言の意義に気づく。	アメリカの独立戦争や独立宣言、フランス革命や人権宣言の特徴に関心を高め、意欲的に調べようとしている。	13植民地の人々がイギリス本国に対して求めた権利について、アメリカの独立戦争の経緯や独立宣言から多角的に考察している。	フランス革命について、革命前の身分社会と個人の権利や市民社会の政治の違いからまとめている。また、独立宣言と人権宣言を読み比べて、共通する言葉を抜き出している。	独立戦争を通じて、アメリカが市民革命を成し遂げたことや、フランス革命の歴史的意義について理解している。
	③「世界の工場」の光とかげ 1	○イギリスで機械と蒸気機関を利用した工業化が進み、世界で最初に産業革命が起こったことや、その広がりの中で資本主義社会が成立したことを理解する。 ○社会主義の実現や参政権の拡大を求める動きの背景には、資本主義社会のもとの労働問題や社会問題の発生があったことに気づく。	産業革命に関心を高め、社会や人々に与えた影響について意欲的に調べようとしている。	産業革命が国民生活に与えた影響について、工業化による大量生産や交通網の発達などの光の面と、その一方で労働問題や社会問題などのかげの面があったことを指摘している。	産業革命前後の工業の変化や、資本主義と社会主義の経済のしくみの違いについて図表にまとめている。	イギリスは「世界の工場」とよばれるほどの資本主義国に成長し、世界各国も19世紀の末までに産業革命を成し遂げたことを理解している。
	④強大な国家を目指して 1	○アメリカが西部の開拓や南北戦争を経て発展していった過程を理解するとともに、西部の開拓によって先住民が土地を追われたことに気づく。 ○社会の改革や国家の統一による近代化によって、欧米諸国が勢力を高め、列強とよばれるようになったことを理解する。	欧米諸国がどのようにして国家の勢力を強めていったのか、その政策に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。	欧米列強の成立の要因について、欧米の幾つかの国を例に、経済力や軍事力などから指摘している。	独立後のアメリカの発展や欧米列強のそれぞれの成立の過程について、資料をもとに図表にまとめている。	アメリカ合衆国では、南北戦争を経て資本主義が急速に発展したこと、ヨーロッパで民主主義が大きく前進した19世紀当時、後進国であったロシア・イタリア・ドイツにおいても近代化が進んだことを理解している。
⑤国をゆるがす綿とアヘン 1	○産業革命の進展にともない、イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国が、工業原料や新たな市場を求めてアジアに進出し、植民地化を進めたことを理解する。 ○インド大反乱や、中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について考えるとともに、こうした抵抗が独立運動や革命の動きにつながっていったことに気づく。	ヨーロッパ諸国がアジアの国々を次々と植民地化していった理由や、アジアの国々の抵抗について関心を高め、意欲的に調べようとしている。	インド大反乱や、中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について説明している。	地図をもとに、ヨーロッパ諸国が植民地を求めて、どの地域に進出していったのか調べている。また、イギリス・インド・清の貿易の関係について図にまとめている。	産業革命が進展するなかで、新たな市場や原料、植民地を求めてアジアに進出したイギリスなどのヨーロッパ諸国の動きについて理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第5章 近代の幕開け	●節の評価規準					
	第2節 開国と幕府政治の終わり 4	○社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革についてとらえ、幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。 ○幕末の開国と、その政治的・社会的な影響について、欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。	幕府が対外政策を転換して開国したことに対する関心を高め、その政治的および社会的な影響について意欲的に追究しようとしている。	欧米諸国のアジアへの進出や開国が、幕府や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	開国するまでの経緯や、開国後に攘夷運動が高まり江戸幕府が滅亡に至るまでの過程について、様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	欧米諸国のアジア進出を背景に、幕府が対外政策を転換し開国したことで、幕府への批判が高まり江戸幕府が滅亡したことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑥内と外の危機 1	○日本に外国船が接近するようになった背景を振り返り、こうした動きに対して、幕府が北方の調査や海防の強化、外国船打払令を命じたことを理解する。 ○社会の変動のなかで内外に危機が生じたことを理解するとともに、天保の改革はこれらに対応できず、幕府政治が行き詰まったことに気づく。	日本に外国船が接近したことに関心を高め、その背景やそれに対する国内の動きを意欲的に調べようとしている。	外国船の接近や百姓一揆の多発など、国内外の危機が幕府や藩に与えた影響について、民衆の闘いや天保の改革、藩政改革などから多角的に考察している。	日本への外国船の接近の様子について、地図や年表をもとに調べている。また、天保の改革の目的や内容、結果についてまとめている。	外国船の接近と深まる財政難という内外の危機に直面した幕府は、天保の改革に取り組むが失敗に終わり、ますます危機を深めたことを理解している。
	⑦たった四はいで夜も眠れず 1	○幕府が対外政策を転換し、ペリーの来航により開国した経緯を、当時のアジア情勢と関わらせて理解する。 ○日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について、外国との関係や、幕府と大名との関係から考える。	開国が日本と欧米諸国との関係に及ぼした影響について関心を高め、開国に至るまでの経緯や外国との関係について意欲的に調べようとしている。	日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について、外国との関係や、幕府と大名との関係から説明している。	日米和親条約や日米修好通商条約で開かれた港について、地図をもとに調べ、条約の内容について資料から読み取っている。	欧米諸国のアジア進出、ペリーの来航から、諸外国との不平等条約の締結までの動きについて理解している。
	⑧新たな政権をめぐって 1	○開国後、物価の上昇や外交に対する幕府への批判が高まったことや、幕府はこれを弾圧で抑え込もうとしたことを理解する。 ○攘夷運動の高まりが倒幕へと動き、薩長同盟が結ばれた理由について、長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりから考える。	開国が社会や幕府政治に与えた影響について関心を高め、意欲的に調べようとしている。	攘夷運動の高まりが倒幕へと動き、薩長同盟が結ばれた理由について、長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりなどから多角的に考察している。	開国が社会や幕府政治に与えた影響について、貿易による品不足と物価上昇、倒幕への動きが高まったことなどから読み取っている。	開国後の経済や社会の混乱を背景に、尊王攘夷運動が高まり、薩長同盟が結ばれて倒幕への動きが起こったことを理解している。
	⑨御政事売り切れ申し候 1	○社会不安が広がるなかで、民衆による一揆や打ちこわしなどの世直しの動きが高まり、幕府の権威を弱めたことを理解する。 ○徳川慶喜が大政奉還を行ったねらいと、倒幕勢力が王政復古を宣言して新政府をつくったねらいに気づく。	世直しの一揆や「ええじゃないか」の動きに関心を高め、民衆がこのような騒ぎを起こした背景や原因について意欲的に調べようとしている。	江戸幕府滅亡の経緯について、民衆の力や薩摩藩・長州藩を中心とした倒幕運動などから多角的に指摘している。また、大政奉還と王政復古のそれぞれのねらいについて説明している。	社会不安の広がりから江戸幕府滅亡までの過程について、資料を適切に選択して調べている。	倒幕運動が広がり、民衆の「世直し」への期待が高まるなかで、幕府が大政奉還をして政権が朝廷に移ったことを理解している。
	◆人物から歴史を探ろう 坂本龍馬と横井小楠 ◆地域から歴史を探ろう 改革や平等を求めて (1)	○薩長同盟を仲立ちした坂本龍馬に関心を広げ、龍馬が目ざした新しい日本の政治構想や、横井小楠との関係について理解を深める。 ○幕府政治がゆらぐなか、税の負担や身分の差別を強める藩の動きに対し、人々が改革や平等を求めて起こした一揆について理解を深める。	薩長同盟を仲立ちした坂本龍馬に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。また、幕府政治がゆらぐなかで、各地でどのような動きがあったのか、三閉伊一揆や波染一揆を例に調べようとしている。	坂本龍馬が目ざした新しい日本の政治構想や、横井小楠との関係について説明している。	坂本龍馬の生涯について、有用な資料を適切に選択して、読み取ったり年表にまとめたりしている。	坂本龍馬が目ざした新しい日本の政治構想や、財政悪化に苦しむ藩で起きた一揆の目的について理解している。
	★学習のまとめと表現 2	○「近代の幕開け」の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○「近代の幕開け」から近代へ時代がどのように変化していったのか、産業技術の違いに着目して関心をもつ。	繊維業の生産技術がどのように変わっていったのか意欲的に発表しようとし、「近代の幕開け」から近代への時代の変化に関心を高めている。	「近代の幕開け」のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	「近代の幕開け」の舞台となった場所を地図にまとめている。	「近代の幕開け」の時代の移り変わりや、人物との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的現象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的現象についての知識・理解
第6章 近代の日本と世界	●節の評価規準					
	第1節 明治維新と立憲国家への歩み 7	○新政府による政治の改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについてとらえ、明治維新により近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ○自由民権運動や大日本帝国憲法の制定についてとらえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	明治維新の経緯のあらましや、人々の生活の大きな変化に対する関心を高め、立憲制の国家が成立し議会政治が始まる過程を意欲的に追究しようとしている。	新政府による政治の改革のねらいや、明治維新による人々の生活の変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	富国強兵の諸改革、殖産興業による近代産業の育成、文明開化の動き、立憲国家の成立に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	明治維新により近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、自由民権運動により当時アジアで唯一の近代的な立憲国家となったことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①万機公論に決すべし 1	○新政府軍が国内を統一していった過程について理解する。 ○新政府が戊辰戦争の最中に五箇条の御誓文を發布したことに気づき、その意図や形式、内容について理解する。	新政府が国内を統一していった過程や、新政府の政治の方針について意欲的にとらえようとしている。	新政府の政治の方針について、五箇条の御誓文などから多角的に指摘している。	五箇条の御誓文を読み取り、新政府が示した政治の方針についての理解に活用している。	新政府が国内を統一していった過程や、新政府が五箇条の御誓文で示した政治の方針について理解している。
	②人民に上下の別なき 1	○版籍奉還・廃藩置県・四民平等の改革についてとらえ、新政府はどのような国家を目指したのかを考える。 ○四民平等の改革の後、残された社会的差別からの解放を目指す動きがあったことに気づく。	新政府がそれまでの政治や社会のしくみを変革していったことに関心を高め、改革の内容を意欲的に調べようとしている。	新政府が目ざした国家について、版籍奉還・廃藩置県・四民平等の改革から多角的に指摘している。	明治維新に関わる資料をもとに、新政府の改革の内容や、新政府のしくみについてまとめている。	新政府は、版籍奉還や廃藩置県によって將軍・大名の領主権を廃止し、中央集権体制を築いていったことを理解している。
	③学問は身を立てるの財本 1	○学制・兵制・税制の改革についてとらえ、政府が富国強兵の政策による近代国家の建設を目指したことを理解する。 ○学制・徴兵令・地租改正に反対する動きが起こった理由について、人々の負担や生活に及ぼした影響から考える。	明治政府の改革に関心をもち、学制・兵制・税制について意欲的に調べようとしている。	徴兵制度や地租改正が社会に及ぼした影響について、政府のねらいや反対の動きが起こった理由、民衆の生活の変化などから多角的に説明している。	欧米列強に対抗できる国家を建設するための改革について、江戸時代との違いをまとめている。	学制・兵制・税制によって、日本が近代国家を目指していたこと、それによる人々の負担や生活に及ぼした影響について理解している。
	④ザン切り頭をたたいてみれば 1	○殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や、生活・町並みの洋風化の様子を、江戸時代と比べて理解する。 ○政府により北海道の開拓が推進された一方で、先住民族であるアイヌの人たちの生活の場が奪われ、アイヌ民族に対する差別が続いたことに気づく。	殖産興業の政策による社会や人々の生活への影響に関心をもち、意欲的に調べようとしている。	殖産興業の政策について、産業・交通・通信の近代化や、生活・町並みの洋風化の様子などから多角的に考察している。	西洋にならった改革で、新たにできたり始まったりした物事を江戸時代と比較して表にまとめている。	殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や、生活・町並みの洋風化の様子について理解している。また、北海道の開拓が進められるなかで、アイヌ民族に対する差別が続いたことに気づいている。
	⑤智識を世界に求めて 1	○政府が岩倉使節団を派遣した目的や成果について理解するとともに、朝鮮に対しては、武力を背景に日本に有利な条約を結んで開国させたことに気づく。 ○政府は、清との国交を開き、ロシアとの国境を画定させるとともに、琉球に対して日本への編入を断行していったことを理解する。	岩倉使節団の派遣に関心を高め、日本と欧米の関係や、日本と周辺諸国との関係について意欲的に調べようとしている。	征韓論をめぐる西郷隆盛と大久保利通の考え方の違いについて、対立した理由を土族の不満や欧米視察と関連させて説明している。	明治初期の日本の外交や領土画定の歩みを年表にまとめ、東アジアの様子を地図に表している。	政府が岩倉使節団を派遣した目的や成果について理解するとともに、朝鮮に対しては、武力を背景に日本に有利な条約を結んで開国させたことに気づいている。
⑥民撰議院を開設せよ 1	○民主主義の思想の広まりを背景に、国会開設を目指す自由民権運動が全国に広まり、様々な憲法案や政党がつくられたことを理解する。 ○自由民権運動が衰えていった理由について、政府による取り締まりや民権派による激化事件などとの関わりから考える。	自由民権運動に対する関心を高め、当時の様子や起こった事件について進んで調べ、人々の心情や状況をとらえようとしている。	立憲政治を目指す政府と民権派の考え方の違いについて説明している。自由民権運動が衰えていった理由について、政府と民権派の動きと関連づけて指摘している。	主な土族の反乱と、自由民権運動の広がり、主な激化事件を調べ、図表にまとめている。	民撰議院(国会)の必要性を主張した自由民権運動が、土族や有力な農民などにも急速に広がり、様々な憲法案や政党がつくられたことを理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第6章 近代の日本と世界	⑦憲法の条規により之を行う 1	○大日本帝国憲法の制定過程と内容の特色について理解し、日本が天皇を元首とする、当時アジアで唯一の立憲国家となったことに気づく。 ○憲法のもとで始められた政治の特色を、議会や選挙、「家」の制度などからとらえ、現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考える。	内閣制度の確立や大日本帝国憲法の制定から、日本が近代国家の仲間入りをしたことに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	大日本帝国憲法下の政治について、議会や選挙、教育勅語、「家」の制度などの面から日本国憲法と対比して、その特色を指摘している。	大日本帝国憲法の特色を調べ、憲法下の国家のしくみについて図表にまとめている。	日本が当時アジアで唯一の立憲国家となり、大日本帝国憲法では、天皇が統治者として強い権限をもつ一方、憲法のもとで選挙に基づく議会政治も始められたことを理解している。	
	◆人物から歴史を探ろう 山川（大山）捨松と津田梅子 ◆地域から歴史を探ろう アイヌの文化を伝えた人たち (1)	○山川捨松と津田梅子に関心を広げ、彼女らの活躍と、女性の社会的な地位の向上に与えた影響について理解を深める。 ○政府の同化政策によるアイヌの人たちの暮らしの変化に気づき、アイヌ民族の文化が伝承されたことの意義について考えを深める。	アイヌ民族の文化や、文化を伝えた人たちについて関心を高め、意欲的に調べようとしている。	アイヌの人たちの暮らしの変化に気づき、アイヌ民族の文化が伝承されたことの意義について考察している。	山川捨松と津田梅子の活躍について、文章や資料をもとにまとめている。	山川捨松と津田梅子の活躍が、女性の社会的な地位の向上に影響を与えたことについて理解している。	
	●節の評価規準						
	第2節 激動する東アジアと日清・日露戦争 5	○条約改正の歩みや日清・日露戦争についてとらえ、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と関わらせて理解する。	急速に近代化した我が国へ大きな影響を与えた戦争に対する関心を高め、条約改正から日本の国際的地位が向上するまでの経緯について、意欲的に追究しようとしている。	日清・日露戦争などの対外的な動きが、国内や国際社会へ与えた影響について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日清・日露戦争における日本の国際的地位が向上したことを、帝国主義により激動する東アジアの動きと関連させながら、様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	急速に近代化した我が国の国際的地位の向上と大陸との関係のあらましを、条約改正や日清・日露戦争を通して理解し、その知識を身に付けている。	
	●各単元の評価規準						
	⑧対等な条約を求めて 1	○19世紀の後半に、列強諸国が帝国主義の動きを強め、アジアに勢力を広げながら東アジアにも迫り始めたことを理解する。 ○条約改正の歩みをとらえるとともに、イギリスとの条約改正に成功した理由について、日本の近代化や東アジア情勢との関わりから考える。	欧米列強が帝国主義の動きを強める国際情勢のなかで、日本が条約改正を進めていったことに関心をもち、その経緯を意欲的に調べようとしている。	条約改正の経緯について、明治政府の政策や東アジア情勢の変化と関連づけて説明している。	欧米列強の植民地拡大の様子について、列強が世界をどのように分割支配していたのか地図にまとめている。	19世紀後半に欧米の資本主義の国々は、強大な経済力を背景に帝国主義の時代に入ったこと、日本は近代的な諸制度を整えたことを背景に、条約改正の道が開け、国際的地位を高めたことを理解している。	
	⑨朝鮮をめぐる戦い 1	○朝鮮をめぐる勢力争いが清との対立を生み、日清戦争を引き起こす要因となったことに気づく。 ○日清戦争と三国干渉をきっかけに、国内では、ロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化がみられたことや、政党政治の基礎が築かれたことを理解する。	日本・朝鮮・清の関係に関心を高め、日清戦争の原因と国内の変化について意欲的に調べようとしている。	日清戦争の原因と結果、国内外への影響について、甲午農民戦争や下関条約、三国干渉などから多角的に指摘している。	「東アジアの国際関係を描いた風刺画」から、日本・清・朝鮮・ロシアの関係について読み取っている。	日清戦争と三国干渉をきっかけに、国内ではロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化が見られたことや、政党政治の基礎が築かれたことを理解している。	
	⑩「眠れる獅子」に迫る列強 1	○日清戦争後、欧米列強が清を分割・侵略していったことや、それに抵抗する中国民衆の動きが起こったことを理解する。 ○日本とイギリスが日英同盟を結んだそれぞれのねらいについて、ロシアの動きや東アジアの情勢との関わりから考える。	日清戦争後の東アジアの動きに関心を高め、欧米列強による中国の分割支配や東アジアの情勢について意欲的に調べようとしている。	欧米列強が清に植民地を広げた理由や背景について、自分の考えを発表している。	日英同盟を結んだころの日本と、韓国・清・欧米列強との関係を、図に表している。	欧米列強の中国分割から日英同盟に至る経緯を、当時の国際社会や東アジアの情勢と関連づけて理解している。	
	⑪列強との戦い 1	○韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから、日露戦争が起こったことを理解するとともに、開戦論が強まるなかで非戦論が唱えられた理由について考える。 ○戦争の推移や講和についてとらえ、戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で、その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解する。	日露戦争に関心を高め、原因や国内・国際社会へ与えた影響について意欲的に調べようとしている。	戦争の原因や結果、国民感情、国内・国際社会への影響などについて多角的に考察し、日露戦争の歴史的な意義を説明している。	地図やグラフから、日露戦争の戦場や規模の大きさ、日本の領土の変化などについて、日清戦争と比較して読み取っている。	韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから、ロシアとの開戦に踏み切った経緯を理解し、戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で、その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
第6章 近代の日本と世界	⑫変わりゆく東アジア 1	○日露戦争後、日本が韓国を併合し、同化政策などの植民地支配を進めたことにより、朝鮮の人々の主権が奪われていったことに気づく。 ○日本は、満鉄などを通じて満州にも勢力を広げていったことや、中国では、三民主義を唱えた孫文らによって辛亥革命が起こり、中華民国が成立したことを理解する。	日露戦争後の東アジアの動きに関心を持ち、韓国併合や辛亥革命などについて意欲的に調べようとしている。	孫文が唱えた三民主義から、どのような国づくりを旨としたのか、アヘン戦争以後の中国の歩みを振り返って、自分の考えを発表している。	韓国併合と辛亥革命の前後で、東アジアの地図がどのように変わったか読み取っている。	日本は韓国を植民地とし、朝鮮の人々の主権を侵害したこと、植民地化の進む中国では、三民主義を掲げた辛亥革命によって中華民国が成立したが、国内の政治的対立が続いたことを理解している。	
	◆世界から歴史を探ろう 海外へ移住した日本人 ◆資料から歴史を探ろう 人口からみた日本の歴史 (1)	○明治時代に多くの日本人が海外へ移住したことに関心を持ち、その背景や現地での暮らしの様子について、ハワイやブラジルの歴史とともに理解を深める。 ○日本の人口の移り変わりに関心を持ち、日本の歴史の流れとの関わりについて考える。	明治時代に多くの日本人が海外へ移住したことに関心を持ち、その背景や現地での暮らしの様子について、意欲的に調べようとしている。	日本の人口の移り変わり、日本の歴史の流れとの関わりについて考察している。	「800年以降の人口の移り変わり」のグラフを、日本の歴史の流れと関連させながら読み取っている。	海外へ移住した日本人を通して、ハワイやブラジルの歴史や、日本との関わりについて理解している。	
	●節の評価規準						
	第3節 近代の産業と文化の発展 3	○産業革命と国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展についてとらえ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。	近代産業の発展による国民生活の変化や近代文化に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	産業革命が国民生活に与えた影響について、経済の変化と人々の生活の変化との関わりから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	グラフや地図から産業の発展を読み取ったり、近代文化の特色を様々な資料を活用し、図表にまとめたりしている。	殖産興業政策の下で進展した我が国の近代産業が、産業革命を経て発展したことや、それにとまなう国民生活の変化について理解している。また、西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成されたことを理解している。	
	●各単元の評価規準						
⑬近代産業を支えた糸と鉄 1	○日本では、19世紀の末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み、資本主義が確立したことや、20世紀に入って重工業も発達したことを理解する。 ○工業化や交通機関の発達、都市や農村の生活に大きな変化をもたらした、人々の生活範囲も広がったことに気づく。	日本の産業革命に対する関心を高め、軽工業に続き重工業が発達した過程について意欲的に調べようとしている。	産業革命が都市や農村の生活にもたらした変化について、八幡製鉄所の設立や交通網の発達などから多角的に考察している。	写真やグラフから、当時の工場の様子や工業生産量の推移、地域社会や人々の生活の変化を読み取っている。	日本の産業革命は、国家資本を中心として展開され、製糸・紡績などの軽工業から鉄鋼・造船などの重工業へと変化したことを理解している。		
⑭工業化のかけで 1	○急速な工業化の一方で、厳しい労働条件の改善を求める労働運動や、社会主義運動が起こり、政府は治安警察法によりこれらを取り締まったことを理解する。 ○足尾銅毒事件の原因や被害の様子、田中正造らの運動、政府の対策などをとらえ、深刻な公害問題となった理由について考える。	産業が急速に発展した一方で、様々な社会運動が起こったことに関心高め、その原因や政府の対応を意欲的に調べようとしている。	工業化のかけで起きた問題について、社会運動や足尾銅山鉱毒事件の公害問題などから多角的に考察している。	産業革命により、どのような労働運動や社会問題が発生したのか、資料やグラフから読み取っている。	急速な工業化のなかで、劣悪な労働条件の改善を求めて労働運動が起こり、また、資本主義の矛盾に対して社会主義運動が起こったことを理解している。		
⑮西洋文化と伝統文化 1	○教育制度の整備により就学率が高まり、高等教育や女子教育も盛んになった一方で、国定教科書などを通じて教育の国家統制が強まっていったことに気づく。 ○明治時代には、西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成され、世界で最先端の研究や発見も生まれたことを理解する。	明治時代の文化に関心を持ち、教育制度や新しい近代文化について意欲的に調べようとしている。	国定教科書などを通じて、国家による教育の統制が強められた背景について考察している。	西洋文化の影響を受けた明治時代の近代文化について、江戸時代の文化との違いを分野ごとにまとめている。	明治時代には、西洋文化の影響を受けた新しい文学・美術が発展したことや、学校教育の普及や情報の広がりにもなって国民的文化が形成したことに気づいている。		
★学習のまとめと表現 2	○近代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○近代から「大戦期」へ時代がどのように変化していったのか、戦争の戦い方の違いに着目して関心をもつ。	戦争の戦い方にどのような違いがあるか意欲的に発表しようとし、近代から「大戦期」への時代の変化に関心を高めている。	近代のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	近代の舞台となった場所や、日本の領土拡大の歩みを、地図や年表にまとめている。	近代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。		

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第7章 二度の世界大戦と日本	●節の評価規準					
	第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き 5	○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについてとらえ、第一次世界大戦前後の国際情勢や、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、日本の動きと関わらせて理解する。	第一次世界大戦と大戦後の世界や日本の動きに対する関心を高め、大戦を引き起こした要因や、大戦後に世界平和実現のために世界や日本が取り組んだ努力について、意欲的に追究しようとしている。	第一次世界大戦について、欧米列強や日本が推し進めてきた帝国主義政策や、民族対立、大戦の状況、大戦後の世界や日本の動きなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	第一次世界大戦と大戦後の世界に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	第一次世界大戦の背景や戦いの様子、大戦後の世界の動きについて関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①クリスマスまでには帰れるさ 1	○第一次世界大戦は、植民地や勢力圏をめぐるヨーロッパの列強諸国間の対立や、民族問題を背景として起こったことを理解する。 ○第一次世界大戦が、史上初の世界的な規模の戦争で、新兵器も登場して総力戦となったことに気づくとともに、参戦国や国民生活にもたらした影響について考える。	第一次世界大戦の背景や戦いの様子に関心を高め、第一次世界大戦がどのような戦争だったのかを意欲的に追究しようとしている。	第一次世界大戦を引き起こした要因や戦いの様子について多面的・多角的に考察し、総力戦がもたらした影響について説明している。	写真などの資料から、第一次世界大戦のころのヨーロッパの情勢や、第一次世界大戦の戦いの様子を読み取っている。	三国協商と三国同盟、バルカン半島の情勢、第一次世界大戦の始まり、総力戦の内容に関する知識を身に付け、第一次世界大戦のあらましについて理解している。
	②パンと平和、民主主義を求めて 1	○ロシア革命が起こった経緯や、ソビエト政府の社会主義政策についてとらえ、連合国側がソビエト政府に対する干渉戦争を始めた理由に気づく。 ○アメリカの参戦や、ソビエト政府とアメリカが示した講和原則が、第一次世界大戦と戦後の世界に与えた影響について考える。	第一次世界大戦中のロシアとアメリカの動きに関心を高め、二国の動きが大戦に与えた影響について意欲的に調べようとしている。	ロシア革命とアメリカの参戦が第一次世界大戦に与えた影響について、ロシア革命の内容と意義に着目しながら考察している。	「第一次世界大戦の経過」の年表から、ロシア革命やアメリカの参戦と第一次世界大戦との関係を読み取っている。	ロシア革命に関する知識（年・リーダー・内容・経過）を身に付け、ロシア革命の意義や位置づけと大戦に与えた影響について理解している。
	③成金の出現 1	○日本は、勢力拡大を目的に第一次世界大戦に参戦し、中国に対して二十一か条の要求を認めさせ、シベリアにも出兵したことを理解する。 ○大戦景気によって日本の経済が急成長し、事業を拡大した大企業が、財閥として経済界を支配するようになったことに気づく。	第一次世界大戦中の日本の動きに関心を高め、日本が大戦を勢力拡大に利用していったことを意欲的に調べようとしている。	第一次世界大戦中の日本の動きや国内の様子を考察し、大戦によって国際社会における日本の勢力が拡大したことに気づき、説明している。	第一次世界大戦中の日本の軍事行動を地図で確認し、二十一か条の要求の内容から、日本の軍事行動の目的を読み取っている。	第一次世界大戦への日本の参戦、二十一か条の要求、シベリア出兵、成金、財閥に関する知識を身に付け、第一次世界大戦における日本の行動と大戦中の日本国内の様子について理解している。
④不戦の誓い 1	○第一次世界大戦の終結と講和の内容についてとらえ、ヨーロッパでは多くの国が独立したにもかかわらず、アジアやアフリカで民族自決が認められなかった理由を考える。 ○大戦後には国際連盟が設立され、軍縮の動きや国際協調の気運が高まるとともに、民主主義も国際的に広がったことを理解する。	第一次世界大戦後の世界の動きに関心を高め、世界平和実現のためになされた努力とその限界について意欲的に調べようとしている。	ベルサイユ条約の内容と大戦後の世界の動きを多面的・多角的に考察し、新しい社会秩序構築のための世界各国の努力とその限界について説明している。	ベルサイユ条約の内容や「第一次世界大戦後のヨーロッパ」の地図、「紙幣の束で遊ぶ子どもたち」の写真などの資料から、大戦後の世界の動きを読み取っている。	ベルサイユ条約、国際連盟、ワイマール憲法に関する知識を身に付け、第一次世界大戦の終結までの経緯と、大戦後の世界の動きを関連づけて理解している。	
⑤わきあがる独立の声 1	○第一次世界大戦後、朝鮮・中国・インドで独立などを求める民族運動があい次いで起こったことや、日本は朝鮮の三・一独立運動を武力でおさえつけたことを理解する。 ○アジアでの民族運動の高まりの背景には、民族自決の理念の広まりがあったことに気づく。	第一次世界大戦後のアジアの動きに関心を高め、朝鮮・中国・インドの独立などを求める民族運動の様子と結果について意欲的に調べようとしている。	アジアの民族運動を世界の動きと結びつけながら考察し、新しい社会秩序とその限界について説明している。	様々な資料から、朝鮮・中国・インドの独立などを求める民族運動の様子を読み取っている。	三・一独立運動、五・四運動、インドの独立運動に関する知識を身に付け、第一次世界大戦後の世界の動きとアジアの民族運動を関連づけて理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第7章 二度の世界大戦と日本	●節の評価規準					
	第2節 大正デモクラシー 3	○政党政治の確立や民主主義思想の普及、社会運動の高まりについてとらえ、大正時代に国民の政治的自覚が高まり、文化の大衆化も進んだことを理解する。	第一次世界大戦後の日本の動きに対する関心を高め、政治・社会・文化の面から意欲的に追究しようとしている。	第一次世界大戦後の日本の動きを、政治・社会・文化を関連づけながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	大正時代の政治・社会・文化に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	大正時代の特色について、政治・社会・文化を関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑥憲政の本義を説いて 1	○第一次護憲運動や米騒動といった民衆運動の高まりや、民本主義の提唱などを背景に、大正時代に日本で初めて本格的な政党内閣が成立したことを理解する。 ○米騒動を引き起こした米価の高騰は、第一次世界大戦の影響やシベリア出兵と関わりがあることに気づく。	日本の民主主義の拡大について関心を高め、政党政治の確立までの動きについて意欲的に調べようとしている。	第一次世界大戦後の世界の動きと日本の政治の動きを関連づけて考察し、民主主義が拡大していく過程を説明している。	日本の民主主義の拡大に関する政治的事象を適切に整理し、年表にまとめている。また、グラフなどから、米騒動と第一次世界大戦やシベリア出兵との関わりを読み取っている。	日本の民主主義拡大の動きに関する知識を身に付け、政党政治が確立するまでの動きを、世界の動きと関連づけて理解している。
	⑦デモクラシーのうねり 1	○大戦後の経済不況を背景に、労働者や農民による争議、社会主義運動、差別からの解放を求める運動などの社会運動が高まったことを理解する。 ○政党内閣のもとで普通選挙法が成立し、協調外交が進められた一方で、治安維持法が制定されたことの意味を考える。	民主主義の拡大にともなう社会運動の高まりについて関心を高め、日本の社会の動きを意欲的に調べようとしている。	第一次世界大戦後の日本の社会の動きを多面的・多角的に考察し、「大正デモクラシー」といわれる時代の特色について指摘している。	「労働争議と小作争議の発生件数」のグラフや、「青鞥の宣言」・「水平社宣言」の資料から、労働運動、女性解放運動、部落差別解放運動の様子を読み取っている。	活発化した社会運動に関する知識を身に付け、大正時代における社会の民主化の進展と限界を、政治・経済の動きと関連づけて理解している。
⑧モボ・モガの登場 1	○大正時代には、都市人口の急増により大都市が発達し、生活の洋風化が進むとともに、サラリーマンや職業に就く女性も増えたことを理解する。 ○国民の教育水準が上がるなかで、新聞や雑誌、ラジオ放送などのメディアが発達し、文化の大衆化が進んだことに気づく。	大正時代の日本の文化に関心を高め、人々の生活の変化について具体的に調べようとしている。	大正時代の人々の生活や文化と、政治・社会の動きを関連づけて考察している。	様々な資料から、大正時代の人々の生活の様子や変化、文化の内容を読み取っている。	大正時代には、生活の洋風化が進むとともに、国民の教育水準が上がるなかで、文化の大衆化が進んだことを理解している。	
◆郷土の歴史を探ろう 大正・昭和初期の面影を訪ねて (1)	○身近な地域に残る大正・昭和初期の建物や町並みについて、様々な視点や方法で調べる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。	身近な地域に残る大正・昭和初期の建物や町並みに関心を高め、実際に地域を歩いたり、図書館や資料館で調べたりしようとしている。	大正・昭和初期の建物と周囲の建物を比べて、デザインや構造の違いについて指摘し、その理由を推測している。	地図や観光パンフレットなどの資料から、大正・昭和初期の建物の場所を確認している。また、調査したことを、写真や地図等を使いながらまとめている。	身近な地域の調査方法（文献調査・校外調査・聞き取り調査など）について理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第7章 二度の世界大戦と日本	●節の評価規準					
	第3節 恐慌から戦争へ 5	○経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活についてとらえ、軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。	第二次世界大戦前の世界と日本の動きに対する関心を高め、世界平和の実現を旨とした国際社会の挫折や、戦争に向かっていく世界と日本の情勢について意欲的に追究しようとしている。	第二次世界大戦前の複雑な国際情勢について、経済と政治の動きを結びつけながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	第二次世界大戦前の世界と日本に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	第二次世界大戦を引き起こした要因について、世界恐慌による世界経済の悪化と各国の社会の混乱、それにとまなう政治体制の変化を関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑨独裁者の出現 1	○世界恐慌が起こった経緯をとらえ、その対策としてアメリカが行ったニューディール政策や、イギリス・フランスが行ったブロック経済の特徴について理解する。 ○ドイツやイタリアでファシズムが台頭した経緯をとらえ、多くの国民が独裁者を支持した理由について考える。	世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響に関心を高め、各国の対策とそれにとまなう国際社会の変化について意欲的に調べようとしている。	世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響を考察し、ファシズムが台頭した経緯と理由について説明している。	「ヒトラーの言葉・ムッソリーニの言葉」の資料や、「集会で握手にこたえるヒトラー」の写真から、ファシズムの考え方やそれを支持した国民の様子を読み取っている。	世界恐慌、ニューディール政策、ブロック経済、ファシズムに関する知識を身に付け、世界恐慌とそれに対する各国の対策が、国際社会を大きく変化させたことを理解している。
	⑩日本を襲う不景気 1	○日本では、関東大震災による打撃や世界恐慌の影響を受けて経済が混乱し、生活が逼迫した国民の間には、政党政治に対する不満と不信が広まったことに気づく。 ○政党内閣の進める協調外交がしだいに行き詰まったことを、国民政府軍による中国統一の動きと関わらせて理解する。	世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響に関心を高め、それにとまなう日本の社会の変化について意欲的に調べようとしている。	世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響を考察し、日本の社会の混乱を、国民生活の苦しさや政府に対する国民の不満の高まりと関連づけながら説明している。	写真とグラフから、世界恐慌下で混乱する日本の経済や社会の様子を読み取っている。	世界恐慌下の日本の政治・経済・社会の混乱について理解している。
	⑪満州は日本の生命線 1	○満州事変が起こった経緯をとらえ、日本がつくらせた満州国は、事実上の植民地であったことに気づく。 ○満州事変を支持する国内の世論を背景に、日本は国際連盟を脱退し、軍縮も破棄して国際社会から孤立していったことを理解する。	満州事変が起こった経緯に関心を高め、国際社会から孤立していく日本の動きについて意欲的に調べようとしている。	満州事変が日本や国際社会に与えた影響を考察し、国際社会から孤立していく日本の動きを具体的に説明している。	「溥儀の『満州国』執政就任式」・「満州での開拓の様子」の写真や、「満州国」の建国ポスター」の資料から、日本が満州事変を起こした目的や日本の主張を読み取っている。	満州事変に関する知識を身に付け、日本が満州事変を起こした目的と国際社会の反応の差に気づくとともに、満州事変が日本を戦争に向かわせるきっかけとなったことを理解している。
	⑫「話せばわかる」 1	○五・一五事件と二・二六事件をきっかけに、政党政治に代わる軍国主義の動きが高まり、軍部が政治への発言力を強めていったことを理解する。 ○満州と華北をめぐる対立から、日本は中国と戦争を始めたことや、抗日民族統一戦線の結成など中国の抵抗により、戦争が長期化していったことを理解する。	軍国主義の高まりについて関心を高め、軍部の台頭とそれにとまなう政党政治の終わり、日中戦争への歩みについて意欲的に調べようとしている。	五・一五事件や二・二六事件が起こった背景を考察し、政党政治に代わって軍国主義の動きが強まっていった理由について説明している。	日中戦争における戦線の拡大と長期化の様子を、地図から読み取っている。	五・一五事件、二・二六事件、日中戦争に関する知識を身に付け、日中戦争の始まりを、軍国主義という政治体制の確立・拡大と関連づけながら理解している。
	⑬ぜいたくは敵だ 1	○国家総動員法の制定や、大政翼賛会・隣組などの組織が、戦争遂行のために果たした役割について考える。 ○政府は、メディアや教育、生活物資などを通じて国民生活を厳しく統制したことや、植民地の人々に対しても、日本人に同化させる皇民化政策を強めたことを理解する。	戦時下の国民生活について関心を高め、物資の不足や厳しい統制など、国民の苦しい生活について意欲的に調べようとしている。	日中戦争の長期化と厳しい国民生活を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。	戦時下の日本の様々な写真から、当時の厳しく、苦しい生活を読み取っている。	国家総動員法、大政翼賛会に関する知識を身に付け、戦争遂行のために、国が国民生活を厳しく統制したことを理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第7章 二度の世界大戦と日本	●節の評価規準					
	第4節 第二次世界大戦と日本の敗戦 4	○第二次世界大戦の開戦から終結までの欧米諸国や日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民生活についてとらえ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解するとともに、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づく。	第二次世界大戦の開戦から終結までの世界と日本の動きに対する関心を高め、大戦の経過と大戦がもたらした惨禍、戦時下の厳しい生活を調べるなかで、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について考えようとしている。	第二次世界大戦での枢軸国と連合国の動きについて、ヨーロッパでの戦争・日中戦争・太平洋戦争を関連づけながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、大戦の考察を通して、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について思いを深めている。	第二次世界大戦の戦況や被害、戦時下の生活に関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	第二次世界大戦のあらましについて、日本と世界の動きを関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。また、第二次世界大戦が、かつてない大きな被害と犠牲をもたらした戦争であったことを理解している。
	●各単元の評価規準					
	⑭枢軸国と連合国の戦い 1	○第二次世界大戦の開戦の経緯をとらえ、ドイツがイタリア・日本と結びつきを強めて枢軸を形成したことや、占領地でユダヤ人虐殺などの過酷な支配をしたことを理解する。 ○民主主義を守ろうとする国々が、大西洋憲章のもとに連合国としてまとまったことに気づき、大西洋憲章の意義について考える。	1930年代後半のドイツとイタリアの動きに関心を高め、第二次世界大戦の開戦に至るまでの経緯について意欲的に調べようとしている。	ドイツのナチ党によるユダヤ人虐殺について考察し、戦争がもたらす過ちや悲劇について考えを深めている。	枢軸国と連合国の対立と戦争拡大の様子を、地図から読み取っている。	枢軸国と連合国に関する知識を身に付け、特に、ドイツの動きが第二次世界大戦を引き起こすきっかけになったことを理解している。
	⑮米・英への宣戦布告 1	○日中戦争が長期化するなか、日本は軍需物資を求めて東南アジアに侵攻し、アメリカとの対立から太平洋戦争を始めたことを理解する。 ○「大東亜共栄圏」を提唱した日本の占領政策についてとらえ、植民地からの解放を期待したアジアの人々がどのように受け止めたのかを考える。	日本が日中戦争遂行のためにとった動きについて関心を高め、太平洋戦争開戦に至るまでの経緯について意欲的に調べようとしている。	当時の日本の動きを世界情勢と関連づけながら考察し、日本が日中戦争と並行して太平洋戦争を行う決断をした理由について説明している。	「日本の資源の輸入先の割合」のグラフから、アメリカとの関係悪化が日本の戦争遂行に大きな影響を与えたことを読み取っている。また、「太平洋戦争」の地図から戦線拡大を確認し、この戦争の無謀さを読み取っている。	太平洋戦争に関する知識を身に付け、開戦に至る経緯を、日中戦争の遂行状況、ヨーロッパでの戦争の状況、日米関係と関連づけながら理解している。
	⑯欲しがりません勝つまでは 1	○戦争が総力戦となるなか、学生を含む多くの国民や植民地・占領地の人々が、兵力や労働力として動員・連行されたことを理解する。 ○戦況が悪化するなか、国民生活は窮乏し、日本への空襲が繰り返されるようになって、国内でも大きな犠牲が生じたことを理解する。	戦時下の国民生活の様子に関心を高め、日本の被害の拡大とそれともなう国民生活の悪化について意欲的に調べようとしている。	戦況の悪化と拡大する被害、国民生活の窮乏を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。	戦時下の日本の様々な写真から、当時の厳しく、苦しい生活を読み取っている。	東京大空襲や学徒出陣、学童疎開に関する知識を身に付け、戦況の悪化とそれともなう被害の拡大、窮乏する国民生活の様子を関連づけて理解している。
	⑰軍国主義の敗北 1	○イタリア・ドイツの降伏に続いて、日本も沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦などを経て降伏し、第二次世界大戦が終結したことを理解する。 ○終戦後も残留孤児やシベリア抑留などの被害が続いたことに気づき、戦争は国内外で多大な惨禍をもたらしたことを理解する。	沖縄戦や原爆投下などの戦争がもたらした惨禍に関心を高め、第二次世界大戦が大きな被害と犠牲をともなうて終結していったことを意欲的に調べようとしている。	第二次世界大戦がもたらした惨禍を考察し、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について考えを深めている。	沖縄戦や原爆投下の写真から、戦争がもたらした惨禍について読み取っている。	沖縄戦、原爆投下、ポツダム宣言に関する知識を身に付け、第二次世界大戦の終結を大戦がもたらした惨禍と関連づけながら理解している。また、学習を通して、戦争の悲惨さや愚かさ気づいている。
	◆人物から歴史を探ろう 後藤新平と杉原千畝 (1)	○後藤新平や杉原千畝の行動や生き方について、大戦期の時代背景との関わりのなかで関心をもつとともに、地域社会・国際社会に生きることの意味について考えを深める。	大戦期に海外で活躍した杉原千畝について関心を高め、彼の生き方から、日本人としての誇りと、「国際社会の中の日本人」としてのよりよい生き方について考えようとしている。	杉原千畝につき動かした思いを推測し、人間としての正義や信念、世界の人たちとともに生きることの意味について考えを深めている。	関東大震災後の復興に関する資料や文章を読み取り、後藤新平の復興計画が、その後の東京のまちの原型になっていることに気づく。	後藤新平の復興計画を、大戦期の時代背景や社会の風潮と関連づけながら理解している。
★学習のまとめと表現 2	○「大戦期」の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○「大戦期」から現代へ時代がどのように変化していったのか、子どもたちの生活の違いに着目して関心をもつ。	戦争の終結で、子どもたちの生活や思いがどのように変わったのか意欲的に予想しようとし、「大戦期」から現代への時代の変化に関心を高めている。	「大戦期」のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	「大戦期」の舞台となった場所を地図にまとめている。	「大戦期」の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第8章 現代の日本と世界	●節の評価規準					
	第1節 日本の民主化と冷戦 5	○第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程についてとらえ、冷戦の始まりや朝鮮戦争などの世界の動きのなかで、新しい日本の建設が進められたことを理解する。	第二次世界大戦後の日本の変化に対する関心を高め、新しい日本の建設がどのように進められたのか意欲的に追究しようとしている。	冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰や第二次世界大戦後の諸改革の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などに関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①敗戦からの再出発 1	○連合国軍による日本占領や民主化政策についてとらえ、その方針がポツダム宣言に基づいていることに気づく。 ○敗戦後の苦しい国民生活のなかで、人々の間には統制からの解放感が広がり、娯楽や文化もしだいに復興していったことを理解する。	敗戦後の日本の状況に関心を高め、暮らしの変化を意欲的に調べようとしている。	連合国軍による日本占領や民主化政策について考察し、その方針がポツダム宣言に基づいていることを指摘している。	敗戦後の苦しい国民生活の様子とともに、他方では人々の間に統制からの解放感が広がったことを、写真や本文から読み取っている。	連合国軍の占領政策や、民主化政策について理解している。
	②平和国家を目指して 1	○日本国憲法の制定過程や三原則についてとらえ、憲法制定により民主主義国家としての根幹が定まったことに気づく。 ○民法の改正、教育基本法の制定、財閥解体、農地改革などの改革のねらいや影響について理解し、戦前の制度と比べて、その特色を考える。	日本国憲法の制定や教育・経済の民主化が、社会にどのような変化をもたらしたかに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	日本国憲法の制定により、民主主義国家としての根幹が定まったことに気づき、説明している。また、教育や経済の改革について、戦前の制度と比較して考察し、その特色を説明している。	「あたらしい憲法のはなし」の挿絵や改革に関する写真を活用し、戦後の改革が何を旨としていたかを読み取っている。	日本国憲法の三原則、民法、教育基本法、財閥解体、農地改革のねらいや影響について理解している。
	③冷たい戦争の始まり 1	○大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことを理解し、ドイツや朝鮮が二つに分断されたことに気づく。 ○中国で中華人民共和国が成立し、アジア・アフリカでは植民地の独立があい次ぐなか、中東ではイスラエルとアラブ諸国間で戦争が続いたことを理解する。	第二次世界大戦後の世界の国々の動きに関心を高め、冷戦の背景や原因について意欲的に調べようとしている。	ドイツや朝鮮が二つに分断されたことや、アジア・アフリカでの第三世界の形成について、東西の冷戦と関連づけて説明している。	ベルリンの壁について、写真や地図を活用して調べ、その意味を読み取っている。また、アフリカ諸国の独立について、集中した時代を地図から読み取っている。	国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことや、中東ではイスラエルとアラブ諸国間で戦争が続いたことを理解している。
	④38度線の緊張 1	○冷戦の緊張が高まるなか、日本に対するGHQの占領政策が大きく転換したことを理解し、その理由について考える。 ○朝鮮戦争の経緯や日本との関わりをとらえ、日本に特需景気をもたらしたことに気づくとともに、GHQが警察予備隊を新設させた目的について考える。	現在も続く韓国と北朝鮮の緊張関係から、冷戦がアジアに与えた影響に関心を高め、日本・アメリカ・中国・ソ連のそれぞれの立場や関係について意欲的に調べようとしている。	日本に対するGHQの占領政策が、大きく転換した理由について考察している。	朝鮮戦争をめぐる日本とアメリカの関係について、地図や新聞資料などを活用して読み取っている。	朝鮮戦争の経緯に関する知識を身に付け、戦争が日本に特需景気をもたらしたことや、GHQの指令により警察予備隊が新設されたことを理解している。
	⑤独立から復興へ 1	○日本は、平和条約を結んで独立を回復し、国連に加盟して国際社会に復帰したことを理解するとともに、安保条約によりアメリカの強い影響下におかれたことに気づく。 ○冷戦を背景に、国内では原水爆禁止運動が盛り上がったことや、経済が急速に復興するなか、自由民主党が政権を担当する政治体制が築かれたことを理解する。	冷戦のなか、日本がどのようにして独立を回復したか関心を高め、意欲的に調べようとしている。	日本が独立を回復し、国際社会に復帰した一方で、ソ連との北方領土問題や中国との国交、アメリカによる沖縄などの統治など、様々な課題が残されたことを指摘している。	日本との講和をめぐり、連合国の間には様々な主張の違いがあったことを、資料から読み取っている。	独立の回復後、国内では冷戦を背景に原水爆禁止運動が盛り上がったことや、経済が急速に復興するなか、自由民主党が政権を担当する政治体制が築かれたことを理解している。

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第8章 現代の日本と世界	●節の評価規準					
	第2節 世界の多極化と日本 3	○ベトナム戦争や中東戦争などの世界の動きを背景に、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、安保改定・沖縄返還・日中国交正常化などの国際社会との関わりのなかでとらえ、日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。	1960～70年代の世界と日本の動きに対する関心を高め、国民の生活がどのように向上していったのか意欲的に追究しようとしている。	日本の高度経済成長や石油危機について、国際社会や国民生活との関わりから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	日本の高度経済成長や石油危機、国際社会や国民生活との関わりなどに関する様々な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	1960～70年代の世界と日本の動きについてとらえ、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑥自主・独立・平和を求めて 1	○ベトナム戦争の経緯や日本との関わりについてとらえ、ベトナム反戦運動の世界的な高まりに気づく。 ○経済の統合や民主化など、東・西ヨーロッパで米ソに対抗する動きが起こったことや、中東の紛争を背景に、アラブ諸国の石油戦略が先進国に影響を与えたことを理解する。	ベトナム戦争や中東の紛争と、日本との関わりに関心を高め、意欲的に調べようとしている。	ベトナム戦争の経緯について考察し、反戦運動が世界的に高まった理由を推測している。	ベトナムやチェコ、パレスチナでの報道写真から、自主・独立・平和を求める人々の願いを読み取っている。	東・西ヨーロッパで経済の統合や民主化などの動きが起こったことや、アラブ諸国の石油戦略が先進工業国に大きな影響を与えたことを理解している。
	⑦国際関係の変化 1	○安保条約改定の内容や経過をとらえ、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由について考える。 ○日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯についてとらえらるとともに、今日まで残された課題があることに気づく。	安保条約改定に対する国民の大規模な反対運動に関心を高め、意欲的に調べようとしている。	安保条約改定の内容や経過について考察し、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由を説明している。	沖縄に関する写真を活用し、本土復帰の前と後で何が変わり、何が変わらなかったのかを読み取っている。	日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯に関する知識を身に付け、今日まで残された課題があることを理解している。
	⑧高度経済成長の光とかげ 1	○1960年代の高度経済成長により、国民生活は豊かになった一方で、過疎・過密化などの社会問題や深刻な公害問題が生じたことを理解し、その原因について考える。 ○石油危機の打撃を受けた日本が、産業構造を転換させたことや、その後の輸出超過により各国と貿易摩擦が起こったことを理解する。	高度経済成長がもたらした国民生活の変化や、石油危機の影響に関心を高め、意欲的に調べようとしている。	高度経済成長期に、過疎・過密化などの社会問題や、深刻な公害問題が生じた原因について考察している。	高度経済成長がもたらした光の面とかげの面について、資料や本文から読み取っている。	石油危機の打撃を受けた日本が、産業構造を転換させたことや、その後の輸出超過により各国と貿易摩擦が起こったことを理解している。
◆郷土の歴史を探ろう 移り変わる戦後の街を訪ねて (1)	○戦後の身近な地域や人々の暮らしの変化について様々な視点や方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の発展を願う人々の営みに気づく。	戦後に大きく変化した身近な地域の様子に関心を高め、変化の状況や背景について意欲的に調べようとしている。	戦後の身近な地域の変化の背景には、人々のどのような願いがあったのか、自分なりに考察している。	戦後の身近な地域の変化の状況について、地域を歩いたり、聞きとり調査をしたりしながら調べ、歴史新聞にまとめている。	戦後に大きく変化した身近な地域の様子を、これまでに学習した戦後の日本の歩みと関連づけながら理解している。	

章	節・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第8章 現代の日本と世界	●節の評価規準					
	第3節 冷戦の終結とこれからの日本 3	○冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについてとらえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることに気づき、これからの未来をひらくためにどのように社会と関わればよいのか考える。	冷戦終結後の世界と日本の動きに対する関心を高め、未来に向けて社会に残されている様々な課題と、自分との関わりについて意欲的に追究しようとしている。	国際社会のなかで日本が果たす役割や、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題について多面的・多角的に考察し、これからどのように社会と関わればよいのか自分なりに表現している。	冷戦終結後の世界と日本の動きや、社会に残されている環境・人権・平和などの課題に関する情報を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。	冷戦終結後の世界や日本の動きと関連づけながら、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	⑨変動する国際社会 1	○東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことを理解するとともに、地域紛争やテロ事件が今もなお続くなかで、日本が果たすべき国際的役割について考える。 ○政治統合を旨とするヨーロッパ連合の動きについてとらえ、こうした動きは世界にも広まりつつあることに気づく。	冷戦終結後のアメリカやヨーロッパでの動き、世界各地であいにく地域紛争やテロ事件について関心を高め、日本との関係に着目しながら意欲的に調べようとしている。	EUが結成された背景や、地域紛争・テロ事件が続くなかで日本が果たすべき国際的役割について、具体的に考察している。	写真や地図をもとに、冷戦終結後の世界の変化を読み取っている。	東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことや、地域紛争やテロ事件が世界各地で今もなお続いていることを理解している。
	◆世界から歴史を探ろう 隣国と向き合うために (1)	○市場経済の導入による中国の経済発展、韓国の急速な経済成長と民主化、南北首脳会談の実現など、東アジアの動きについて理解する。 ○北朝鮮との外交の動きについてとらえ、交流が活発化する東アジアの国や地域との間に、様々な課題が残されていることに気づき、これからの関係について考える。	冷戦終結後の東アジアの国や地域の動きに関心を高め、日本との外交や交流について意欲的に調べようとしている。	日本と東アジアの国や地域の間に残された、戦後補償・領土・環境などの課題について考察し、これからの関係について自分なりの言葉で表現している。	写真や近年の新聞記事から、日本と東アジアの国や地域の間でどのような外交・交流が進められているか読み取り、表にまとめている。	市場経済の導入による中国の経済発展、韓国の急速な経済成長と民主化、南北首脳会談の実現など、冷戦終結後の東アジアの動きについて理解している。
	⑩私たちの生きる時代へ 1	○バブル経済の経緯と、その崩壊で日本経済が長い不況に入ったことを理解するとともに、その後の政権交代の推移をとらえ、新たな政治のあり方が模索されていることに気づく。 ○阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会に及ぼした影響について考える。	冷戦終結後から近年にかけての国内の動きに関心を高め、その背景について意欲的に調べようとしている。	阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会にどのような影響を及ぼしたか考察している。	自分が生まれ育ってきた15年間の社会のできごとを新聞などで調べ、時代背景と関連づけて発表している。	バブル経済の崩壊により日本の経済が長い不況に入ったことや、政権交代が起こったことなど、新たな政治のあり方が模索されていることを理解している。
	⑪未来をひらくために 1	○グローバル化・情報化・少子高齢化の動きをとらえ、自分たちの生活に様々な影響を及ぼしていることに気づき、公民的分野の学習への課題意識をもつ。 ○環境や人権を守り、豊かで平和な国や世界を築いていくことの重要性を理解するとともに、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考える。	グローバル化・情報化・少子高齢化の動きが、自分たちの生活に及ぼしている影響について意欲的に調べ、公民的分野の学習に関心を高めている。	環境・人権・平和をめぐる様々な課題に対し、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考察している。	グローバル化・情報化・少子高齢化の動きや、環境・人権・平和をめぐる課題について、昨今の新聞記事を収集・活用して発表している。	これからの未来をひらくために、環境や人権を守り、豊かで平和な国や世界を築いていくことが重要であることを理解している。
	◆人物から歴史を探ろう 平和を願う人々と平和の祭典「オリンピック」 (1)	○第五福竜丸の保存運動、「原爆の子の像」の建設、平和首長会議の開催、オリンピック・パラリンピックの開催などを通して、平和への人々の願いについて理解を深め、核兵器のない平和な世界の実現に向け、自分たちが取り組むべき行動について考えを深める。	核兵器がもたらした不幸なできごとに関心を高め、核兵器のない平和な世界の実現を願う人々の思いや取り組みについて、意欲的に調べようとしている。	核兵器のない平和な世界の実現に向けて、取り組むべき行動について自分なりに考察し、説明している。	オリンピック・パラリンピックの写真や文章から、平和な世界を実現させようとする取り組みについて読み取っている。	第五福竜丸の保存運動や「原爆の子の像」の建設、平和首長会議の開催に込められた、人々の平和への願いについて理解している。
★学習のまとめと表現 2	○現代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現するとともに、「大戦期」からの時代の変化をとらえ、時代の特色とこれからの時代について考える。	「大戦期」から現代へどのように時代が変わったのか話し合い、これから築いていくべき時代について意欲的にまとめようとしている。	現代のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。	現代の舞台となった場所を地図にまとめている。	現代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解し、その知識を身に付けている。	